

559. 9-D81ㄅ



1200500746613

559.9  
81  
D



始



559.9  
D81

8M-57

防空土木緊急對策

法社  
人團  
土  
木  
學  
會

559.9  
D81  
⑦

序

高度國防國家體制ノ確立ハ緊急至高ノ國策ニシテ其ノ一環トシテノ防空對策ハ全國土ノ凡ユル施設計畫ニ當リ充分ニ考慮セラルベキ問題ナリ、然ルニ緊迫セル國際情勢ト我が國現下ノ防空態勢トヲ併セ考フルトキ其ノ施策未ダ充分ナラズ。

本學會ハ之ニ鑑ミ昭和十五年十二月防空土木委員會ヲ設置シテ全國樞要地域ニ於ケル防空ノ具體的實施方策ヲ攻究スルコトトシ其ノ調査研究ニ當リテハ關係地方ニ同様委員會ヲ設ケ別項研究要項ニ基キ特ニ緊急ヲ要スト認メラル、施策ヲ檢討シ、昭和十六年五月之ガ成案ヲ得ルニ至リタルモノナリ。土木學會防空土木委員會委員氏名次ノ如シ

防空土木委員會

委員長 辰馬 鎌藏

幹事長 春藤 眞三

幹事 阿部 一郎 石川 榮耀 石塚 久展 今井 周



- 岩崎富久 菊池明町田保目黒雄平  
 森田三郎 青山秀雄 青山泰晴 穴澤藤作  
 委員 安藤新六 礮谷道一 糸川一郎 今井四郎  
 井上隆根 磯谷忠恭 小川德三 小宅習吉  
 今井哲 岩澤忠恭 岡田實 奧田教朝  
 大岡禮三 太田尾廣治 岡田實 久保讓  
 櫻部保 金子源一郎 河口協介 佐田昌夫  
 黒田静夫 小林紫朗 小牧孟夫 淨法寺朝美  
 齋藤卯之吉 櫻井英記 澤勝藏 田中茂美  
 末森猛雄 杉戸清 鈴木雅次 高橋三郎  
 高井信一 高木敏雄 高橋嘉一郎 高橋三郎  
 高橋猛雄 瀧尾達也 中津海慎二 永瀬肇  
 二宮錠治 沼田政矩 野口寅之助 信澤貞治  
 藤井真透 藤森謙一 細田貫一 松井達夫  
 松下尙人 松田全弘 三浦貢 水谷當起

事務幹事

- 目黒清雄 山岡包郎 山崎匡輔 山本亨  
 横田周平 吉岡計之助 吉田直 小倉宏三  
 事務幹事 廣瀬可一

防空土木委員會横濱地方特別委員會

委員長 三輪周藏

- 委員 阿部清紀 大岡大三 大林勇治 大村四郎

- 木村芳人 菊池潤三 小島達太郎 坂本信雄

- 澤勝藏 下村猛 末松榮 高田廣

- 野坂相如 濱本齋肅 廣長良一 藤田弘直

- 宮崎正夫 山田啓助

事務幹事 淺野英

防空土木委員會廣島地方特別委員會

委員長 佐土原勳

委員 荒川龍雄 石田昌平 稻葉 愿 遠藤忠夫  
 大島六七男 岡田信次 工藤久夫 佐分利三雄  
 城谷 淳 梶山常治 中島貞一郎 永田 肇  
 長崎敏音 橋本孝之 服部 保 三 上 昭  
 山口德兵衛

防空土木委員會新潟地方特別委員會

委員長 蒲 宇  
 委員 淺見 洋 阿部謙夫 井越 晋 飯島一郎  
 神谷儀明 古賀清藏 酒井銳男 白石鐵藏  
 高橋健吾 知久清之助 廣石一匡 藤田宗光  
 船越春雄 光藤康明 南 武 男 三上房吉  
 山田三郎 安井與三八

關西支部防空土木委員會

委員長 佐藤利恭  
 委員 荒木文四郎 稻浦鹿藏 岩井芳通 岩崎雄治  
 泉谷平次郎 小野龍一 大島太郎 大森義文  
 大木外次郎 奧中喜代一 近藤泰夫 下間仲都  
 鈴木角一郎 瀧淵實烈 辻井富之助 富田惠四郎  
 西 義 一 原口忠次郎 羽賀正義 平野正雄  
 福留並喜 堀 威 夫 牧野雅樂之丞 宮内義則  
 三島卯四郎 村山喜一郎 柳田癸巳夫

中部支部防空土木委員會

委員長 田淵壽郎  
 委員 赤司貫一 伊吹正紀 石川榮次郎 上井兼吉  
 大西英弼 太田民夫 兼岩傳一 川上留吉  
 城戶鎖吉 北澤忠男 桑野實代嗣 小山清孝  
 紫崎敏行 鈴木健二 鈴木鹿象 千田正重

土井源三良 中島忠次 永田民也 長島敏  
 花井又太郎 北企野廣治 松見三郎 松本金吾  
 横山喬 吉田光太郎

西部支部防空土木委員會

委員長 伊藤百世

委員 安藏善之輔 稻田隆 金津尙一 河村眞治  
 久保田秀雄 釘宮磐 小早川貞三 鮫島茂  
 關谷清助 田中熊彦 田寺元治 田村麻三  
 出島一宏 豐田哲夫 長久保信夫 早田成雄  
 松尾守治 三瀬幸三郎 森四郎 八木健二  
 八尋清彦 山口十一郎 山田正隆 山本格  
 綿貫保一 下關市役所 門司市役所 小倉市役所  
 八幡市役所 戸畑市役所 若松市役所 久留米市役所  
 大牟田市役所

東北支部防空土木委員會

委員長 金森誠之

委員 天埜良吉 飯島馨之助 市村益夫 上野節夫  
 内田泰郎 岡崎信雄 加藤平吉 勝目清二  
 門澤利三 叶磯 上山經亮 菅良二  
 後藤久吉 後藤季總 近藤信一 佐藤東次郎  
 庄司陸太郎 薄田清 清野暢三 高橋清藏  
 武田義明 鶴見一之 深井浩三

北海道支部防空土木委員會

委員長 小野諒兄

委員 淺尾基彦 井口定一 井口鹿象 池盛松  
 石丸穂 池田一男 小川敬次郎 大坪喜久太郎  
 河合毅一 倉塚良夫 小出襲次郎 山岡茂

佐伯利吉	齋藤靜脩	神保金衛	清水千代治
杉森文彦	瀬田一雄	谷口成之	千秋邦夫
善如寺秀太郎	大坊政源	高田善藏	高橋敏五郎
鷹部屋福平	千葉菊太郎	土谷實	奈良部龜松
中村一俊	永井雄毅	野村多津雄	初島霞江
日比佐太郎	平尾俊雄	古山發一	細祐次郎
牧ノ瀬秀清	町田利臣	本島正輔	森良介
山岡信吾	吉田浩哉	吉町太郎一	吉谷一次
日鐵輪西製鐵所	日本製鋼所		

# 防空土木緊急對策

## 目次

第一編 總論	一
第一章 緒言	一
第二章 施策要項	三
第三章 防空土木機構ノ整備	一九
第四章 工事費及主要資材總括	二三
第二編 各論	二九
第一章 東京地方	二九
第二章 横濱・川崎地方	三七
第三章 新潟地方	四四

第四章 東北地方	一〇八
第五章 關西地方	一一九
第六章 名古屋地方	一二二
第七章 廣島地方	一五七
第八章 北九州地方	一六五
第九章 北海道地方	一八一

## 第一編 總論

### 第一章 緒言

本對策ハ防空態勢ヲ急速ニ整備センガ爲メ、大都市其ノ他樞要都市ニ於テ特ニ重要ト認メラル、左  
 記事項ニ關シ其ノ具體的施策ヲ綜合セルモノニシテ、整備期間凡ソ三ヶ月以内ト豫定セラル、モノヲ  
 舉ゲタルモノナルモ防空上絕對必要ナルモノハ其ノ工期ノ如何ニ拘ラズ直ニ着手スルヲ至當ト認メテ  
 之ヲ採擇セリ。

- 一、重要施設ノ防護及補強
- 二、應急修理用資材ノ確保
- 三、消防及飲料用水利ニ關スル施設
- 四、消防活動ニ必要ナル施設
- 五、食糧品輸送ノ確保
- 六、退去避難ニ關スル施設

本對策ノ對象トナル地域ハ政治、軍事、産業、交通等諸般ノ施設ノ集中セル重要地域ニシテ左ノ九



地方トス。

東京地方 (東京市、川口市)

横濱・川崎地方 (横濱市、川崎市)

新潟地方 (新潟市)

東北地方 (仙台市、青森市、秋田縣、釜石市、鹽釜市)

關西地方 (大阪市、京都市、神戸市)

名古屋地方 (名古屋市)

廣島地方 (廣島市、吳市)

北九州地方 (下關市、門司市、小倉市、戸畑市、八幡市、若松市、福岡市、久留米市、大

車田市)

北海道地方 (札幌市、小樽市、函館市、室蘭市)

## 第二章 施策要項

### 第一節 重要施設ノ防護及補強(偽裝遮蔽ヲ含ム)

空襲ニ依ル被害ヲ輕減シ國家活動ニ必要ナル機能保持ニ努ムルハ消極防空ノ要諦ナリ、就中都市ニ於ケル國家ノ諸活動及都市生活ハ其ノ有スル各種公共施設ニ依存スルコト極メテ大ナルガ故ニ之ガ重要ナルモノニ付テハ其ノ防護對策ノ確立ヲ必要トス。

而シテ現下ノ事態ハ之等ノ諸施策ノ遷延ヲ許サザルノミナラズ其ノ施策タルヤ速急ニ完成シ得ベキモノタルヲ要ス、依テ此處ニハ都市及其ノ近傍ニ於ケル鐵道、軌道、道路、上下水道、發送電施設、港灣、河川、飛行場、瓦斯石油タンク等ニツキ最小限度ノ機能保持ヲ目途トシ必要ナル防護施設若クハ之ニ代ルベキ施設ノ整備ヲナサントス。

#### 一、鐵道、軌道

鐵道ハ一般交通並ニ軍事輸送上ノ動脈ヲナス重要施設ナルヲ以テ非常災害時ニ於テモ其ノ機能ヲ保持スル爲テニ主要幹線及主要驛ニ對シ左ノ施設ヲ行フモノトス

(一) 主要廳舎及工場ノ偽裝

- (二) 主要廳舎及驛舎ノ防護
- (三) 主要機器ノ防護
- (四) 運轉豫備施設
- (五) 従業員ノ防護
- (六) 消火設備、防火施設

## 二、道 路

非常災害時ニ於テモ都市活動ニ必要ナル最小限度ノ交通ヲ確保スルヲ目途トシ都市ノ内外ヲ通ジテ基本交通路線網ヲ想定シ更ニ之ニ對スル迂回路線ヲモ決定シテ左記事項ヲ實施スルモノトス

- (一) 交通ノ障害トナルベキ路上工作物ノ撤去並ニ改造
- (二) 燈火管制時ニ於ケル残置街燈施設
- (三) 街路緣石、ロータリー、安全地帯等ノ塗裝
- (四) 非常時用交通標識ノ設置
- (五) 排水場運轉施設ノ強化
- (六) 迂回道路トシテノ堤防上道路ノ整備
- (七) 木橋ノ耐火處理

## 三、上 下 水 道

上水道ハ都市生活並消防水利トシテ缺クベカラザル重要施設ナルヲ以テ非常災害時ニ於テモ其ノ供給ヲ確保スルタメ其ノ防護方策トシテ左記事項ヲ行フモノトス

- (一) 取水塔ノ改造
- (二) 木造唧筒室ノ改造
- (三) 斷水區域縮少ノタメ制水瓣ノ増設
- (四) 配水塔、淨水場等ノ偽裝

下水道施設ノ防護方策トシテハ重要唧筒室及電氣設備室等ニ對シテ耐彈片施設ヲナシ以テ排水機能ノ確保ヲ期スルモノトス

## 四、發 送 電 施 設

發送電施設ニ關シテハ發變電所及送配電線路ノ重要度ニ應ジ左記ノ如キ防護設備ヲナスト共ニ發送電施設ガ特殊ノ技術ヲ必要トスルニ鑑ミ自衛防空ニ必要ナル従業員ノ組織訓練ヲナシ以テ空襲時ニ於ケル電力配給及發送電施設ノ運用ニ遺憾ナカラシムルモノトス

(一) 都市及ソノ近傍ノ火力發電所、變電所、並ニ其ノ他ノ地域ニ於ケル規模大ナル火力發電所、水力發電所及第一次變電所ニ對シ彈片及爆風ニ依ル被害ヲ防止輕減スル爲ソノ周圍ニ防護壁ヲ

設ケ又ハ遮蔽偽裝ヲナス

- (二) 水槽、水壓管、取水口、水路橋、サイフォン、水門ニ對シ植樹及塗裝ニ依リ偽裝ヲナス
- (三) 主要機器ヲ收容スル建物ハ耐弾、耐火構造ニ改修ス
- (四) 木造建物ヨリ一〇米以内ニ在ル重要施設ニハ防火用牆壁ヲ設ク

#### 五、港 灣

港灣ノ防護ニ關シテハ航路、港口ノ閉塞又ハ接岸設備ノ破壊ガ港灣機能ノ停止又ハ激減ヲ來ス最大ノ原因タルニ鑑ミ此等諸施設ノ改善整備ヲ以テ最重要對策トスルモ其ノ完成ニハ概ネ長時日ヲ要スルヲ以テ其ノ全部ヲ緊急對策トシテ施行スルハ困難ナリ、依テ此處ニハ左ノ對策ヲ緊急實施スルモノトス

- (一) 港口部航路一部ノ浚渫
- (二) 棧橋ノ増築
- (三) 防空壕築造

#### 六、河 川

河川ノ防護ニ關シテハ高水時其ノ關係施設ノ被害ニ依リ惹起セラル、氾濫ノ防止ヲ目途トシ七月中旬ヨリ十月中旬ニ至ル高水期ニ於テ空襲ヲ受クルモノト想定シ左記ノ諸施設ヲ行フモノトス

尙市街地ヲ貫流スル小河川ニ就テモ高水時ニ於ケル氾濫防止又ハ水上輸送ノ確保等ニ關シソノ對策ヲ必要トスルモ比較的小規模ノモノ多ク應急修理ニ委ヌルモノトス

- (一) 堤防上ヲトラツク交通路トシテ利用シ得ル應急施設ノ整備
- (二) 堤防不良箇所ノ整備

#### 七、飛 行 場

飛行場ノ防護ニ關シテハ特ニ飛行場ガ空軍ノ潰滅、制空權ノ獲得等ヲ目的トスル敵襲ノ目標トナルベキニ鑑ミ緊急時ニ於テモ運航ノ迅速、適確、並ニ飛行場器材ヲ隨時軍用ニ供シ得ル事等ヲ目途トシ左ノ對策ヲ行フモノトス

- (一) 防空壕設置(壕内ヨリ指揮連絡ヲナシ得ル設備ヲナス)
- (二) 燃料其他危險物貯藏所ノ隔離

#### 八、瓦斯、石油タンク

瓦斯、石油タンクノ防護ニ關シテハ其ノ特異ノ形態、大サ等ガ空襲ノ目標トナリ易キヲ以テ之ヲ分散移設スルヲ其ノ根本對策トスルモ緊急對策トシテハ容量一〇、〇〇〇立米以上ノモノニ就キペイント塗裝ニヨル迷彩ヲナスモノトス

## 第二節 應急修理用資材ノ確保

空襲時都市活動ニ必要ナル各種重要公共施設ノ機能ヲ保持スルタメ其ノ防護策ヲ講ズルノ要アルハ勿論斯カル防護策ハ主トシテ諸施設ノ要部ニ對シテ講ゼラルベク其ノ他ノ部分ニ對シテハ應急修理對策ヲ以テ臨ムヲ得策トスベシ。

又諸施設要部ヲ單ニ防護ノミヲ以テ其ノ安全ヲ期セントスレバ多大ノ困難ヲ伴フベシ斯クシテ防護對策ノ反面ニハ必ず應急修理對策ヲ伴フベキモノト思考ス。

斯カル見地ニ於テ鐵道、軌道、道路、上下水道、發送電施設、港灣、河川、飛行場等ノ重要公共施設ニツキ、ソノ被ルコトアルベキ被害ヲ想定シ之ニ必要ナル應急修理用資材、機器、勞力及貯藏所等ニツキ調査ス。

### 一、鐵道軌道

- (一)本線路
- (二)側線路
- (三)高架橋

(四)橋梁

(五)運轉設備

(六)貨物及旅客設備

### 二、道路

(一)路盤復舊、鋪裝假修理

(二)河川沿道路護岸復舊

(三)橋梁復舊

(四)排水場復舊

(五)水門復舊

(六)火災地區道路灰燼整理

(七)汚毒地區道路洗滌

(八)下水溝、排水管等道路附帶施設復舊

### 三、上下水道

上水道

(一)配水管復舊

(二) 淨水場構造物補修

下 水 道

(一) 管 渠 復 舊

(二) 處分場、唧筒場復舊

四、發送電施設

水力發電所

(一) 水槽水壓管復舊

(二) 取水口水門修理

(三) 水路橋、サイフォン修理

(四) 電氣室設備修理

(五) 建 物 補 修

火力發電所及變電所

(一) 汽 罐 室 補 修

(二) 電氣室設備修理

(三) 屋外鐵構修理

(四) 建 物 補 修

五、港 灣

(一) 岸 壁 修 理

(二) 棧 橋 修 理

(三) 上 屋 築 造

(四) 標 識 設 置

六、河 川

(一) 水 門 修 理

(二) 堤 防 修 理

(三) 小河川ノ土堤、護岸、水門及高潮防禦壁修理

七、飛 行 場

(一) 離着場埋戻

(二) 滑走路埋戻

(三) 砂 囊 製 作

### 第三節 消防及飲料用水利ニ關スル施設

一一

重要都市ニ於ケル上水道ノ給水能力ハ平時ニ於テモ消防及飲料用水利トシテ充分ナラズ、一朝有事ニ際シ使用セラルベキ消防用水ニ想到スル時ハ誠ニ寒心ニ耐ヘザルモノアリ、依テ空襲ニ依ル同時多發ノ火災ニ對シテハ上水道ノ給水能力ヲ強化スルハ勿論池沼河川等自然水利ノ積極的利用ヲ考慮シ更ニ上水道以外ノ人工水利施設ノ擴充ヲ計ランガタメ左記ノ事項ヲ實施スルモノトス。

#### 一、上水道施設

##### (一) 水源ノ確保

上水道ノ給水能力ヲ増大確保スルタメ鑿井工事取水設備ノ擴充又ハ取水系統ノ整備等ヲ行フモノトス

##### (二) 配水幹線ノ相互連

空襲火災時ニ一給水區劃内ニ於テ特ニ多量ノ水ガ消費セラル、場合又ハ配水機能ニ故障ヲ生ジ之ガ復舊ニ相當ノ時間ヲ要スル場合ニ對處センガタメ他系統ノ配水幹線ト連絡シ水ノ相互融通ヲ計ルモノトス

##### (三) 隣接都市水道トノ連絡

前項ノ趣旨ヲ更ニ擴張シテ隣接都市水道トノ相互連絡ヲ計ルモノトス

##### (四) 貯水池ノ増設

配水機能ノ一時的停止、或ハ復舊工事期間中ニ於ケル應急的調節能力ヲ増大スルタメ貯水池ヲ増設スルモノトス

##### (五) 消火栓ノ整備

上水道ノ消火栓ハ概ネ必要程度ニ整備セラレアルモ尙不充分ナル都市ノ上水道ニ對シ之ヲ充實スルモノトス又樞要市街地ニ對シ配水幹線ニ直結スル強力ナル多口式消火栓ヲ設置スルモノトス

#### 二、自然水利々用施設

##### (一) 呼水設備

既存ノ濠池ブール等ニシテ常時一〇〇立方米以上ノ水量ヲ有スルモ消防用自動車ノ接近困難ナル爲利用シ得ザルモノニ對シ之ヲ附近ノ道路ニ引出サントス

##### (二) 河水導入施設

自然水利ノ利用不能ニシテ而カモ貯水槽其ノ他ノ人工的水利施設ノ設置困難ナル區域ニ對シ道路内ニ河水導入管ヲ敷設スルモノトス

##### (三) 橋梁吸管投入孔設備

一三

橋梁上ニ於ケル消防作業ヲ敏活容易ナラシムルト共ニ揚程ノ關係上利用シ得ザル水利ノ爲橋面ニ水管投入孔ヲ設置スルモノトス

(四)河水堰止施設

市内ヲ貫流スル河川、水路ニシテ水量豊富ナルモ水深淺キ爲メ消防ポンプニ依ル利用困難ナルモノニ對シ水位ヲ上昇セシムル爲堰止施設ヲナスモノトス

三、人工水利施設

(一)自家用水道公共利用施設

高層建築物ノ有スル自家用水道ヲ一般公共用消防用水トシテ利用センガ爲相接近スル建築物内ニ配管ヲ相互連絡シ若クハ配管ヲ路ニ引出シ之ニ消火栓ヲ設置スルモノトス

(二)貯水槽施設

自然水利ノ利用不可能ナル區域ニ對シ貯水量一〇〇立方米程度ノ貯水槽ヲ設クルモノトス

一貯水槽ノ有效範圍ハ略々之ヲ中心トシ半径二〇〇米ノ圓トナルヲ以テ貯水槽ノ相互間隔四〇〇米程度トナル様配置スルモノトス

(三)防火兼用雜用水道施設

空襲上ノ危険地區内ノ商工業地帯ニシテ未ダ上水道施設ナキ地域、又ハ上水道ノ施設アルモ水

壓水量等不充分ナル地域ニ對シ消防用ト同時ニ工業用乃至雜用水利施設トシテ防火兼用雜用水道ヲ設置スルモノトス

一水道ノ供給區域ハ約一軒圈内トシ、新設鑿井ヲ水源トスルモノトス、尙各工場ノ所有スル鑿井及給水施設ニシテ規模大ナルモノハ必要ニ應ジ相互連絡ヲナスモノトス

第四節 消防活動ニ必要ナル施設

消防活動ヲ敏活容易ナラシメンタメニハ相當幅員ノ道路ヲ適當ニ配置スルヲ要ス、然シテコノ幅員ト間隔トハ主トシテ消防自動車ニヨリテ決定セラル、即チ現在警視廳管下ノ消防自動車ノ主ナルモノニハAA型、A型、B型等アリ、ソノ中AA型最モ多ク今後新造ノモノハ之ニ統一セラル、見込ナリ、從テ道路ノ幅員ハソノ車體長ニ少クトモ二米ヲ加ヘタルモノナルコトヲ要シ有效幅員七―八米ヲ必要トス。

又消防自動車ノ携行スル水管ノ延長ハ二〇〇米ヲ限度トスルガ故ニ前項ノ幅員ヲ有スル道路ガ一邊ノ長サ四〇〇米以内ノ網ヲ構成スルヲ要ス。

又河川濠渠等既存ノ水利ニ對シテハ消防自動車ノ接近シ得ル施設ノ整備ヲ必要トス。

斯カル見地ニ於テ都市内各部位ニ空襲上危険地帯ニ對シ左ノ事項ヲ實施スルモノトス。

## 一、道路ノ整備

### (一) 消防上危険地區内道路新設

道路ノ幅員及配置適當ナラザルタメ消防活動困難ナル地區ニ對シ幅員八米程度ノ道路ヲ新設スルモノトス

### (二) 街角剪除

消防自動車ノ通行ニ支障アル道路ノ街角ヲ剪除スルモノトス

### (三) 路上工作物整理

消防上危険地區内ニ於テ消防自動車ノ通行ニ支障アル電柱、ポスト、變壓器、水栓等ノ路上工作物ヲ整理スルモノトス

## 二、自然水利接近施設

河川濠渠ニシテ接近設備ヲ要スルモノニ付キ河水導入施設、呼水設備等ニ依ルト何レガ實際的ナルカヲ比較シテ道路、廣場等、消防自動車進入路ノ新設又ハ改良ヲナスモノトス

## 第五節 食糧品輸送ノ確保

食糧品ハ一日モ缺クベカラザル重要物資ニシテ之ガ供給ノ確保ハ絶對的ニ必要ナリ。

而シテ都市ニ於ケル食糧品ノ供給ハ専ラ輸送及貯藏ニ負フ所多キヲ以テ最惡ノ場合ニ於ケル輸送及貯藏能力ノ確保ニ就テハ萬全ノ策ヲ講ジ置クノ要アリ。

斯カル見地ヨリ鐵道、港灣、小運送機關及倉庫等ニツキ之ガ對策ヲ考究セルニ輸送ニ關シテハ前述ノ如ク現存施設ノ防護、補強及應急修理用資材ヲ確保シ得レバ概ネ支障ナキヲ確認シ得タリ、貯藏ニ關シテハ尙改善ノ要アルヲ認メタルモ之ガ改善ノ方策ニ付キテハ他日ノ研究ニ待ツコトトセリ。

而シテ本對策ハ特大都市ニ於テ重要性ヲ有シ然モ大都市ニ於テハ各都市略類似ノ状態ニ在ルヲ以テ此處ニハ特ニ京濱地方ニ就キ詳細檢討シ其ノ他ノ都市ニ就テハ之ヲ省略セリ。

## 第六節 退去及避難ニ關スル施設

退去及避難ハ防空施設ノ整備ト極メテ密接ナル關係ヲ有シ施設完備ノ曉ニハ退去等ハ行ハザルヲ理想トス、然レ共現下ノ状態ニ於テハ老、幼、病者等防空活動ニ從事シ得ザル者ニ對シテハ退去ヲ考慮シ又退去先ナキ者若クハ退去シ得ザル者ニ對シテハ避難設備ヲ整へ以テ殘留スル市民ヲシテ、心置ナク防空活動ヲナサシムルヲ要ス、

退去ニ關シテハ各種輸送機關ノ能力及退去者ノ總數ヲ調査シ輸送ニ要スル期間ヲ算定シテ退去ノ方法、時機等ヲ決定スルノ資料タラシメントス、本題ハ特ニ大都市ニ於テノミ重要性ヲ有スルヲ以テ例



ヲ京濱地方ニ採リテ調査シ他ハ之ヲ省略セリ。

避難ニ關シテハ現存避難施設、交通機關ノ能力等ヲ調査シソノ著シク缺除セル施設ニ就テハ之ガ擴充ヲ圖ルモノトス、特ニ六大都市及川崎市、北九州五市及下關市並新潟市ノ一四都市ニ付キテハ現存施設ヲ以テシテハ尙充分ナラザルヲ以テ之ガ擴充ノタメ左ノ施設ヲ行フモノトス。

一、防空壕ノ設置

老、幼、病者等ニシテ退去先ナキ者又ハ退去シ得ザル者ヲ收容スルモノトス

二、空地ノ獲得

家屋密集シ空地著シク缺除セル防空上危險地區ニ對シ空地ヲ設ケ緊急避難所ニ充ツルモノトス

### 第三章 防空土木機構ノ整備

防空土木緊急施策ヲ圓滿且ツ急速ニ實施スルタメニハ機構ヲ整備スルヲ喫緊ノ要事トス而シテ之ニ關シ考慮セラルヘキ事項ハ

(一)命令系統ノ簡易且一元的ナルコト

(二)強力ナル權能ヲ賦與セラル、コト

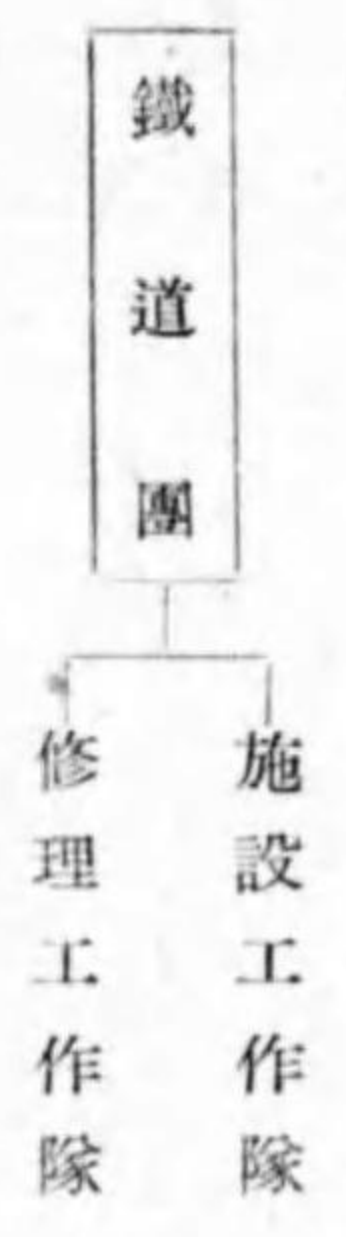
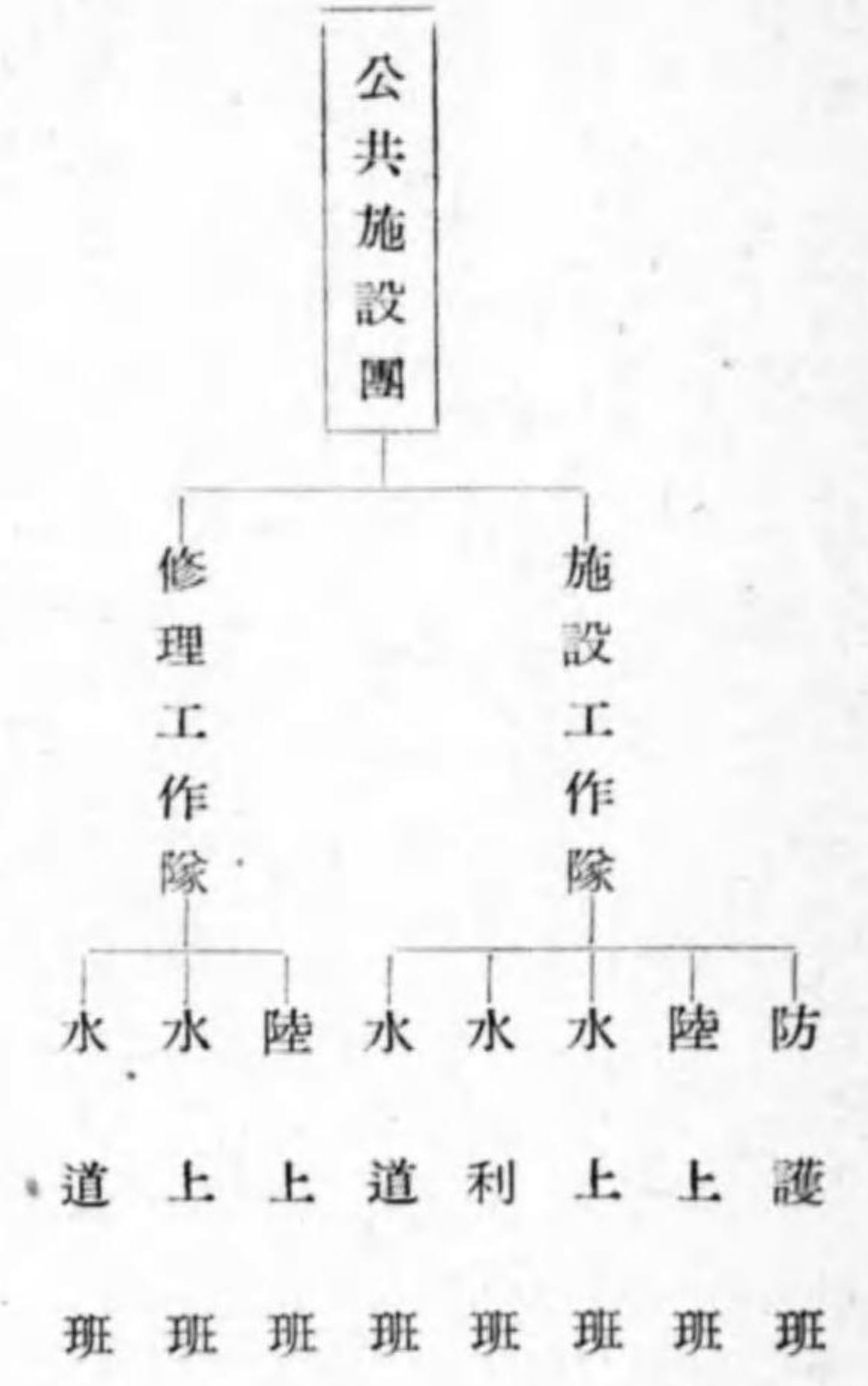
(三)即時適切ナル效果ヲ擧ゲ得ベギ組織タルコト

等ニ要約シ得ベシ依テ左ノ對策ヲ提唱セントスルモノナリ。

一、技術機關ノ綜合的動員計畫ヲ直チニ設定スルコト

(イ)各般ノ組織ハ概ネ現存技術機構ヲ其ノ儘動員スルコト

(ロ)動員計畫ハ左表ノ如キモノタルコト



二、戰時又ハ事變下ニ於テハ軍、官、民防空ヲ一元的ニ統合スベキ中央防空機關(假稱)ヲ設置スル

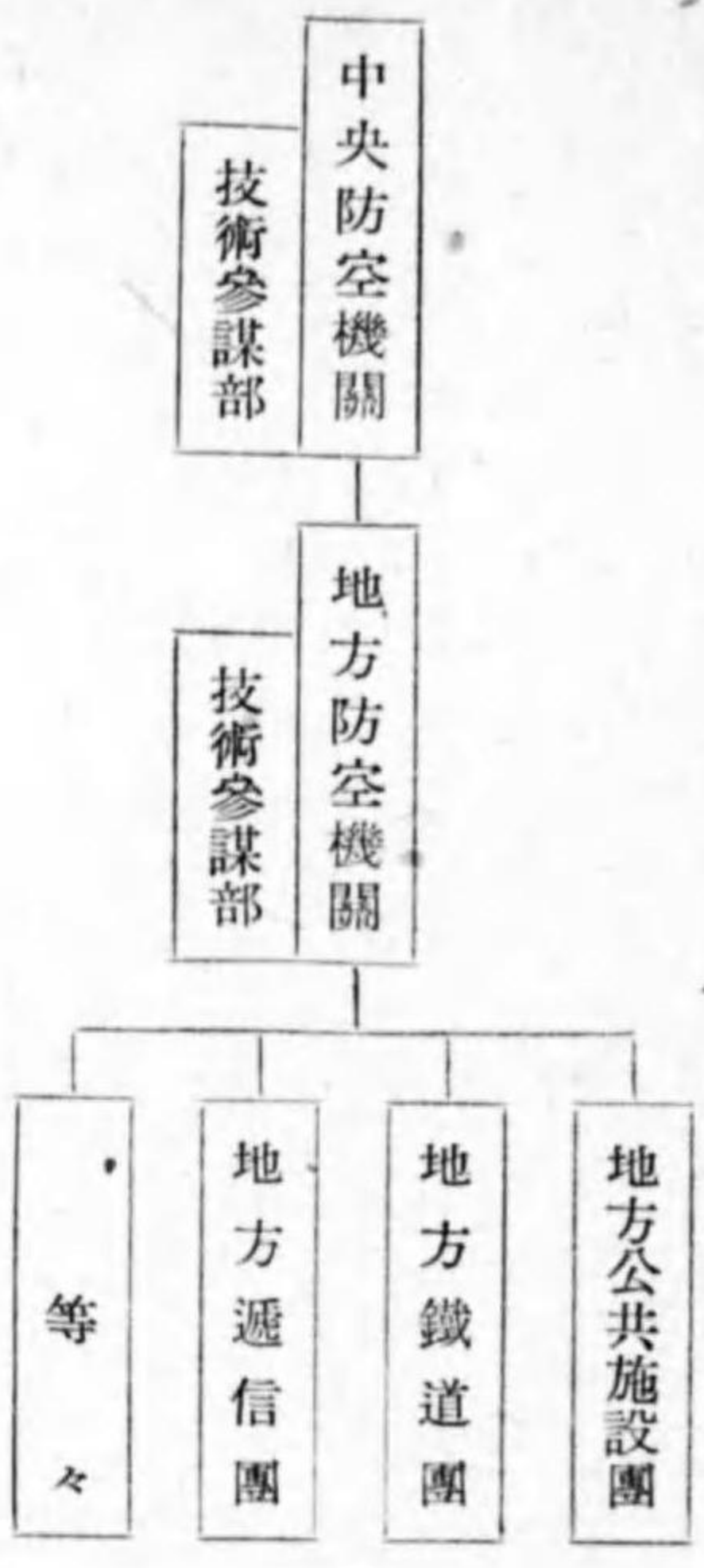
コト

(イ)中央防空機關ニ綜合的技術參謀部ヲ置クコト

(ロ)軍管區別ニ地方防空機關ヲ置クコト

(ハ)前項動員計畫ニ依ル各技術團ハ地方防空機關ニ隸屬セシムルコト

(ニ)本機構ハ左表ノ如キモノタルコト



第四章 工事費及主要資材總括

地方	工事費	資材		
		鐵鋼材	木材	セメント
東京	八九、三九三、七〇〇 <sup>円</sup>	三四、八六二 <sup>噸</sup>	一四六、六九六 <sup>立米</sup>	六四、八六〇 <sup>噸</sup>
橫濱・川崎	一八、二一六、七〇〇	八、三三三	一一、七〇九	一六、二九五
新潟	一、八八八、八〇〇	四一七	二、六九五	三、七二五
東部軍管區小計	一一一、一四三、三〇〇	一、〇八七	二、五八六	三、一七三
關西	四一、〇一四、二〇〇	四四、六九九	一六三、九五九	八八、〇五三
名古屋	一八、一八六、五〇〇	一二、九四六	一一三、九三三	三三、〇四二
中部軍管區小計	五九、二〇〇、七〇〇	二一、一六七	一五四、七二四	二八、三六九
廣島	二、四〇三、三〇〇	二、一六四	五、一六六	二、六九三
北九州	五、七二二、九〇〇	四、二五二	二二、二六七	六、六三七
西部軍管區小計	八、五二六、二〇〇	六、四一六	二八、四三三	九、三三〇
北海道	二、九七一、九〇〇	二、一〇八	三、七三二	四、五六七
總計	一八一、八四二、一〇〇	七四、三九〇	三五〇、八四八	一六三、三六一

一、重要施設ノ防護及補強

地方	工事費	資材		
		鐵鋼材	木材	セメント
東京	一三、二九七、二〇〇 <sup>円</sup>	六、九六八 <sup>噸</sup>	三四、七七一 <sup>立米</sup>	一九、九四一 <sup>噸</sup>
橫濱・川崎	一、三〇六、七〇〇	四〇四	三九〇	一四一
新潟	四五四、八〇〇	一七七	五〇五	二、四七〇
東部軍管區小計	四六九、五〇〇	二四六	四一〇	六八三
關西	一五、五二二、二〇〇	七、七九五	三六、〇七六	一三、二三五
名古屋	八、一六〇、〇〇〇	三、二五三	一九、八五一	一〇、四三七
中部軍管區小計	五、〇五三、七〇〇	一、八四九	六、三三九	六、三九四
廣島	一三、二一三、七〇〇	五、一〇二	二六、一九〇	一六、八三一
北九州	八二二、〇〇〇	五三九	一、九〇五	三〇三
西部軍管區小計	一、三五八、九〇〇	二四五	一、七三二	一、九〇〇
北海道	二、一八〇、九〇〇	七八四	三、六三七	二、二〇三
總計	三三二、一九一、九〇〇	一五、〇四一	六七、〇二六	四四、八五五

二、應急修理用資材ノ確保

地方	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
東京	一一、七一七、一〇〇	九、一六七	二七、三二〇	五、三四〇
横濱、川崎	一、一〇六、四〇〇	一、二〇三	三、一九五	八三六
新潟	三七四、〇〇〇	一九八	六二五	一、〇一七
東北	五四六、五〇〇	四四九	二、一六五	五五〇
東部軍管區小計	一三、七四四、〇〇〇	一一、〇一七	三三、三〇五	七、七四三
關西	一〇、二二九、二〇〇	六、五九六	五〇、三七四	七、五一九
名古屋	四、六六九、一〇〇	二、八八七	一九、六六七	七、五八四
中部軍管區小計	一四、八九八、三〇〇	九、四八三	七〇、〇四一	一五、一〇三
廣島	九七六、九〇〇	一、五二八	二、九一二	一〇〇
北九州	一、八一八、三〇〇	二、一七六	六、八〇六	一、七〇六
西部軍管區小計	二、七九五、二〇〇	三、七六四	九、七一八	一、八〇六
北海道	九五五、一〇〇	七四七	二、〇一四	八九七
總計	三三、三九二、六〇〇	二五、〇一一	一一五、〇七八	二五、五四九

三、消防及飲料用水利ニ關スル施設

地方	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
東京	二二、七三一、八〇〇	一八、五二八	一〇、二二八	三六、一四八
横濱、川崎	四、九八六、二〇〇	六、六六八	八六五	一三、七〇一
新潟	三四〇、〇〇〇	三三三	二七〇	四三〇
東北	六二八、一〇〇	三九二	一一	一、九四〇
東部軍管區小計	二九、六八六、一〇〇	二五、六二一	一一、三七四	五二、二一九
關西	五、九六〇、〇〇〇	三、〇八四	二、七〇五	九、五七六
名古屋	五、六五二、六〇〇	三、四五〇	一、九九一	一三、六四二
中部軍管區小計	一一、六一二、六〇〇	六、五三四	四、六九六	二三、二一八
廣島	三六四、四〇〇	九七	三四九	二、二四〇
北九州	一、六四五、七〇〇	一、八二八	五、七二九	三、〇三一
西部軍管區小計	二、〇一〇、一〇〇	一、九二五	六、〇七八	五、二七一
北海道	五一二、〇〇〇	一	五三〇	一、〇四二
總計	四三、八二〇、八〇〇	三四、〇八〇	二二、六七八	八一、七五〇

四、消防活動ニ必要ナル施設

地方	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
東京	一八、六五三、六〇〇 <sup>円</sup>	一七八 <sup>噸</sup>	四、六五〇 <sup>立</sup>	三、四三一 <sup>噸</sup>
横濱、川崎	七、一四二、四〇〇	五六	一、二五九	一、六一七
新潟	六四〇、〇〇〇	八	一〇三	二〇〇
東部軍管區小計	六二八、一〇〇	三九二	一一	一、九四〇
關西	二七、〇六四、一〇〇	六三四	六、〇二三	七、一八八
名古屋	一二、五六五、〇〇〇	三	三	五、五一〇
中部軍管區小計	一、七一、一〇〇	三一	一、七九四	七四九
廣島	一四、二七六、一〇〇	三一	一、七九七	六、二五九
北九州	二四〇、〇〇〇	一、八二八	五、七二九	三、〇三一
西部軍管區小計	一、八八五、七〇〇	一、八二八	五、七二九	三、〇八一
北海道	二二九、七〇〇	一	六五	四二
總計	四三、四五五、六〇〇	二、四九四	一三、六一四	一六、五七〇

五、退去及避難ニ關スル施設

地方	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
東京	二二、〇〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	二一 <sup>噸</sup>	七〇、〇〇〇 <sup>立</sup>	一 <sup>噸</sup>
横濱、川崎	三、六七五、〇〇〇	二	六、〇〇〇	一
新潟	八〇、〇〇〇	一	八〇〇	一
東部軍管區小計	二五、七五五、〇〇〇	二四	七六、八〇〇	一
關西	四、一〇〇、〇〇〇	一三	四一、〇〇〇	一
名古屋	一、一〇〇、〇〇〇	四	一一、〇〇〇	一
中部軍管區小計	五、二〇〇、〇〇〇	一七	五二、〇〇〇	一
廣島	九〇〇、〇〇〇	三	九、〇〇〇	一
北九州	九〇〇、〇〇〇	三	九、〇〇〇	一
西部軍管區小計	九〇〇、〇〇〇	三	九、〇〇〇	一
北海道	三二、八五五、〇〇〇	四四	一三七、八〇〇	一
總計	三一、八五五、〇〇〇	四四	一三七、八〇〇	一

## 第二編 各論

### 第一章 東京地方

#### 第一節 工事費及主要資材

##### 工事費及主要資材總括

工種	工事費	資材		
		鐵鋼材	木材	セメント
重要施設ノ防護及補強	一三、二九一、二〇〇 <sup>円</sup>	六、九六八	三四、七七一 <sup>葉</sup>	一九、九四一 <sup>噸</sup>
應急修理用資材ノ確保	一一、七一七、一〇〇	九、一六七	二七、三二〇	五、三四〇
消防及飲料用水利ニ關スル施設	二三、七三一、八〇〇	一八、五二八	一〇、二二八	三六、一四八
消防活動ニ必要ナル施設	一八、六五三、六〇〇	一七八	四、六五〇	三、四三一
退去及避難ニ關スル施設	二二、〇〇〇、〇〇〇	二一	七〇、〇〇〇	—
一計	八九、三九三、七〇〇	三四、八六二	一四六、九六九	六四、八六〇

一、重要施設ノ防護及補強

工種	工事費
鐵道(國)	三、八三八、八〇〇
鐵道(私)	四三九、六〇〇
水道(上)	七〇二、七〇〇
水道(下)	三、一八〇、〇〇〇
發電	三九三、七〇〇
港灣	三、一七九、〇〇〇
河川	一、一七〇、〇〇〇
飛行場	二三九、四〇〇
瓦斯石油タンク	六九、〇〇〇
計	一三、二九一、二〇〇

資材	数量
鐵鋼材	一、二六三
木材	二、四七六
セメント	四、三九八
鐵鋼材	一、一八〇
木材	一、一五八
セメント	三、二三八
鐵鋼材	四、〇〇〇
木材	一、〇〇〇
セメント	八、〇〇〇
鐵鋼材	二八
木材	三、二〇〇
セメント	一、〇〇〇
鐵鋼材	六六
木材	一五
セメント	一七四
鐵鋼材	六、九六八
木材	三四、七七一
セメント	一九、九四一

二、應急修理用資材ノ確保

工種	工事費
鐵道(國)	二、五四八、五〇〇
鐵道(私)	一、三五五、二〇〇
水道(上)	一、五〇六、五〇〇
水道(下)	二、〇三二、六〇〇
發電	三一九、九〇〇
港灣	二、八一二、一〇〇
河川	四四八、一〇〇
飛行場	二〇九、〇〇〇
計	一一、七一一、一〇〇

資材	数量
鐵鋼材	三、二六二
木材	一、九六二
セメント	三、五〇〇
鐵鋼材	一二五
木材	五、一三四
セメント	一、七五〇
鐵鋼材	一、九六一
木材	六六六
セメント	九一八
鐵鋼材	六〇〇
木材	二、〇一七
セメント	一、八四七
鐵鋼材	一五七
木材	二、四一五
セメント	三三二
鐵鋼材	九、一六七
木材	二七、三二〇
セメント	五、三四〇

三、消防及飲料用水利ニ關スル施設

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
上水道施設	一三、四三三、七〇〇 <sup>円</sup>	一一、一六一 <sup>噸</sup>	一、六一 <sup>立米</sup>	二四、三二二 <sup>噸</sup>
自然水利利用施設	五四七、二〇〇	九八		八二七
人工水利施設	九、七五〇、九〇〇	六、二六九	八、六一七	一〇、九九九
計	二三、七三一、八〇〇	一八、五二八	一〇、二二八	三六、一四八

四、消防活動ニ必要ナル施設

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
道路ノ整備	一八、四八四、六〇〇 <sup>円</sup>	一七八 <sup>噸</sup>	四、六五〇 <sup>立米</sup>	二、三六四 <sup>噸</sup>
自然水利接近施設	一六九、〇〇〇			一、〇六七
計	一八、六五三、六〇〇	一七八	四、六五〇	三、四三一

第二節 重要施設ノ防護及補強 (○印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

一、鐵道、軌道

工事費及主要資材(國有鐵道)

工種	數量	工事費	資材	摘要
主要廳舎及工場ノ偽裝	四ヶ所	七八、二〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 木 セメント	二七四三 一、九四五 三噸噸噸
○主要廳舎及驛舎防護	三三ヶ所	一、〇七七、八〇〇	鐵鋼材 セメント	六六五 一、三〇〇 <sup>立米</sup> 噸噸
○主要機器ノ防護	八六ヶ所	一、八五〇、五〇〇	鐵鋼材 木 セメント	九二四、九九〇 一、三八六 一、六七二 三四三 噸噸噸噸噸
運轉豫備施設	七ヶ所	三二、八〇〇	鐵鋼材 木 セメント	六二 一、一七 一二七 噸噸噸
○従事員ノ防護	一、三二〇ヶ所	二四九、五〇〇	鐵鋼材	一、五七七 一七七 立米噸
				二〇人用簡易待避壕



工種	數量	工事費	資材	摘要
○消火設備		五五〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント	三四 貯水槽、井戸
計		三、八三八、八〇〇	鐵鋼材 木セメント	

(公私設鐵道)

主要機器	數量	工事費	資材	摘要
防護施設	七三ヶ所	一七七、一五三 <sup>円</sup>	鐵鋼材 砂セメント 空麻利 繩依	變電所 信號所 電話交換所

從業員防護施設	數量	工事費	資材	摘要
	六	一一一、五九九	鐵鋼材 枕木 砂セメント	防空壕

隧道防護施設	數量	工事費	資材	摘要
	四	二五〇、七八〇	鐵鋼材 木セメント 空麻利 砂利 割栗	地下鐵道

鐵道軌道累計	數量	工事費	資材	摘要
計	八三ヶ所	四三九、六〇〇	鐵鋼材 木セメント	
		四、二七八、四〇〇	鐵鋼材 木セメント	

二、道路

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
路上工作物 ノ撤去改造	四ヶ所	五、八九二 <sup>円</sup>	セメント	一一七噸
殘置街燈施設	八、〇五〇基	三一六、九六八	木セメント	一〇九・五噸
緣石ロータリ ノ白色塗裝	一三二、一一三平米	六九、七七八	木	四三三立米
交通標識設置	四〇〇個	三、八二二	木	三〇立米
排水場運轉強化	六五ヶ所	四六、二〇〇	鐵鋼材 木セメント	一四二噸 七四立米
堤防道路改修	五一、九八〇米	二六〇、〇〇〇	セメント	二五噸
計		七〇二、七〇〇	鐵鋼材 木セメント	一二八噸 二二七立米

三五

内燃機關油類貯藏所新設  
多摩川及荒川筋ニ行フ



三、上下水道

(一) 上水道

工事費及主要資材

工種 數量 工事費 資

○地下水塔築造 三ヶ所 二、四四一、四六一<sup>円</sup>

鐵鋼材

一、〇〇四噸

村山・山口兩貯水池ニ實

○唧筒室ノ改造 一、七二八平米 五〇六、〇〇〇

鐵鋼材

一、四一〇噸

木造ノモノ九ヶ所ヲ鐵筋

○制水弁増設 九三二ヶ所 二三三、四八〇

鐵鋼材

一、三三四噸

計 三、一八〇、〇〇〇

鐵鋼材

一、五五八噸

(二) 下水道

工事費及主要資材

工種 數量 工事費 資

耐弾片施設 一八ヶ所 三九三、七〇〇<sup>円</sup>

鐵鋼材

三、四九噸

摘要

四、發送電施設

工事費及主要資材

工種 數量 工事費 資

○防護壁塗裝 一、一六六、〇〇〇<sup>円</sup>

五八ヶ所

一、一六六、〇〇〇

鐵鋼材

一、八四噸

摘要

計 三、一七九、〇〇〇

鐵鋼材

一、八四噸

五、港灣

工事費及主要資材

工種 數量 工事費 資

棧橋築造 五〇〇米 一、一六六、七〇〇<sup>円</sup>

鐵鋼材

三、二八三噸

防空壕築造 一ヶ所 三、三〇〇

鐵鋼材

一、〇一噸

計 一、一七〇、〇〇〇

鐵鋼材

三、二〇八噸

六、河川

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
堤防整備	—	二、四〇〇 <sup>円</sup>		荒川鐵道軌道トノ交叉箇所交通不能ノ箇所五 多摩川鐵道トノ交叉箇所交通不能ノ箇所一 江戸川左岸堤防交通不能箇所ヲ整理ス
敷砂利工	延長七二、〇〇〇米 幅員三一五米	二三七、〇〇〇	多摩川右岸 利根川右岸 江戸川右岸	幅幅幅 三三三 〇〇〇 米米米
計		二三九、四〇〇		

七、飛行場

東京・調布及松戸三飛行場ニ就キ考慮ス

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
防空壕	三〇	六、〇〇〇 <sup>円</sup>	木材	一五立米 木造長三米、幅二米、高二米
油庫	三	六三、〇〇〇	鐵鋼材 セメント	一六六噸 鐵筋コンクリート造 一七四噸
計		六九、〇〇〇	鐵鋼材 セメント 木材	一六六噸 一七四噸 一七四立米

八、瓦斯、石油タンク

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
塗裝	一六五、〇〇〇平米	七九、〇〇〇 <sup>円</sup>	ペイント	一八噸 一〇、〇〇〇立米以上ノタ ンクニ四期工期一ヶ月トス

第三節 應急修理用資材ノ確保

一、鐵道、軌道

工事費、主要資材及勞力(國有鐵道)

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
本線路	一、一六七ヶ所	二九八、五〇〇 <sup>円</sup>	木枕鐵鋼材 枕木	八九六・七噸 五二五・五噸 一四・五噸	一四、三九六 <sup>人</sup> 分岐器ヲ含ム
側線路	三五八ヶ所	一〇九、五〇〇	木枕鐵鋼材 枕木	二六八・七噸 一一三・五噸 五・五噸	五、三九五 分岐器ヲ含ム
高架橋	五一ヶ所	六四〇、一〇〇	鐵鋼材 枕木	一、一九四噸 一、三三五噸 三、三〇七噸	六、三〇〇 軌條桁ステ ジグエ
計					三九

工種	數量	工事費	資	材	勞務者	摘要
橋梁	一三ヶ所	九七四、四〇〇 <sub>円</sub>	枕木 鋼材 木材	七、六九〇・一 一、五五八・一 一〇七・七 立立米米	三六、八三〇 <sub>人</sub>	主要橋梁
運轉設備	二ヶ所	二五、二〇〇	枕木 鋼材 木材	一、一〇二 一、〇〇〇 立立米米	四、二〇〇	
貨物及旅客設備	二ヶ所	五五、八〇〇	枕木 鋼材 木材	一、〇〇〇 一、〇〇〇 立立米米	九、三〇〇	
機械器具及作業用資材		四四五、〇〇〇	枕木 鋼材 木材	一、七五・八 一、〇〇〇 立立米米		
計		二、五四八、五〇〇	枕木 鋼材 木材	一、三、二六二 一、九六二 立立米米		
本線路	二二三	四七三、七八九 <sub>円</sub>	枕木 鋼材 木材	一、八一八・六 一、〇九〇・六 立立米米	三六、一三〇 <sub>人</sub>	

(公私設鐵道)

工種	數量	工事費	資	材	勞務者	摘要
側線路	八	六四、八三二	枕木 鋼材 木材	一、三六六・七 一、三六六・七 立立米米	二、一六〇	
橋梁	三三	七九七、六八六	枕木 鋼材 木材	一、二一八 一、七〇〇 立立米米	一四、〇七二	
隧道	三	一四、八三五	枕木 鋼材 木材	四三三 四三三 立立米米	一七〇	
計		一、三五一、二〇〇	枕木 鋼材 木材	二、三〇三 二、九〇三 立立米米	五二、五三二	

二、道 路

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資	材	技術者	勞務者	摘要
復道 舊路 假復舊 剛質鋪裝 簡易鋪裝 路盤(砂利)	六、三〇〇ヶ所 六、三〇〇ヶ所 八、三〇〇ヶ所 九、九〇〇ヶ所	六三、七九〇	枕木 鋼材 木材	一、四〇〇 一、五〇〇 立立米米	六 <sub>人</sub> 六、三〇〇 <sub>人</sub> 六、三〇〇 <sub>人</sub>		
河川護岸復舊 高潮防禦壁復舊	三ヶ所 五ヶ所	六、三三〇	枕木 鋼材 木材	二、三六六 三、三六六 立立米米	三三 <sub>人</sub> 五〇〇 <sub>人</sub> 八三三 <sub>人</sub>		

工種	數量	工事費	資材	勞務者延人員		摘要
				技術者	一般	
橋梁復舊	三〇、〇五〇 <sup>円</sup>	セメント	三〇、〇五〇	一、三五〇	四、四五〇	鐵橋一二
排水場復舊	六ヶ所	鐵鋼材	〇・六噸	一八〇	四八〇	六六〇
水門復舊	二ヶ所	鐵鋼材	〇・二噸	二八七	四、三〇〇	七、〇八七
道路灰燼整理	六〇、六〇〇立米	木	一・五噸	一八、一八〇	一八、一八〇	全市域道路 =對見込
道路洗滌	一、五九、〇〇〇平米	セメント	一四・七噸	七六〇	七六〇	舊市域內道 路ノ〇%分
道路公私境界 施設物(下水溝)	八、八〇〇米	鐵鋼材	一・三噸	三、七九三	三、七九三	基本線及迂 回線ノ一%分
復舊(排水管)	八、八〇〇米	鐵鋼材	一・三噸	六、五五六	五、五三三	六三、二三三
計						

三、上下水道  
(一) 上下水道

工事費、主要資材及勞力			
工種	數量	工事費	資材
配水管復舊	一、二〇〇ヶ所	八三三、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材
淨水場	二八ヶ所	一、一九九、五六九	鐵鋼材
淨水場 構造物補修			鐵鋼材
計		二、〇三二、六〇〇	鐵鋼材

(二) 下水道

工事費、主要資材及勞力			
工種	數量	工事費	資材
管渠、道路及處分場 柳筒場、工作物應急 復舊	一八	三一九、九〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材
計			鐵鋼材

四、發送電施設

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
應急復舊	一〇〇ヶ所	二、八二二、一〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 五〇〇〇〇 鋼材 一五〇〇〇 木セメント材 二、八〇〇〇〇 立米	三〇〇、〇〇〇 <sup>人</sup>	一日最大員數

五、港灣

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
岸壁修理	二ヶ所	二、〇〇〇 <sup>円</sup>	セメント	八噸	芝浦岸壁
棧橋修理		六、〇〇〇	鐵鋼材 一五〇・四噸		日之出棧橋 竹芝棧橋
上屋築造	三棟	四五〇、〇〇〇	鐵鋼材 一五七噸 木セメント材 二、四〇〇立米		晴海棧橋ハ目下工事中 ニシテ之ニ簡易上屋三棟ヲ建造スルモノトス 四斗樽ヲ代用スルモノトス
標識浮標	四個	一〇〇	鐵鋼材 一五七噸 木セメント材 二、四一五立米	現有人員ニ 充當スル トス	
計		四五八、一〇〇			

六、河川

(一) 大河川

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
水防門	八ヶ所	一五六、八〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 八〇立米	二七、三〇〇 <sup>人</sup>	荒川
水防門	七ヶ所	一二九、九〇〇	鐵鋼材 三三・六噸 木セメント材 四六立米	二三、五〇〇	多摩川
水防門	七ヶ所	一五六、九〇〇	鐵鋼材 三三・六噸 木セメント材 四六立米	二三、五〇〇	江利根川
計		四四三、六〇〇	鐵鋼材 一七二立米 木セメント材 一七一・二噸	七四、三〇〇	鐵鋼材現有量九・二噸 木セメント材六・二五立米

(二) 市内河川

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者
土堤	一三ヶ所	三、〇〇〇 <sup>円</sup>		
護岸	一〇ヶ所	二九、〇〇〇		
水門	五ヶ所	一一八、〇〇〇		
高潮防禦壁	五〇ヶ所	五八、五〇〇		
計		二〇九、〇〇〇	鐵鋼材 一九三・〇立米 木セメント材 一〇三・〇立米	四二、八四二 <sup>人</sup>

七、飛行場

東京・調布及松戸三飛行場ニ就キ考慮ス

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	金額	資材	勞務者	摘要
離着場埋戻	(土量一〇、二〇〇平米)	二一、六〇〇 <sup>円</sup>		三〇〇 <sup>人</sup>	
滑走路埋戻	(三和土一、二〇〇平米)	三、三〇〇		二二〇	一ヶ月間ニ受ケル損害ヲ對象トス
防空砂囊製作	(三和土二七〇立米)	一〇、六二〇		九二四	
		一六、八〇〇 <sup>依</sup>		一、四三四	
計		三五、六〇〇			

第四節 消防及飲料用水利ニ關スル施設 (○印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

一、上水道施設

東京市ノ水道普及率ハ約七〇%、ソノ給水能力ハ一日最大約八七〇、〇〇〇噸ニシテ平時ニ於テモ充分ナリト言ヒ得ザルヲ以テ左ノ施設ヲナス

(一) 水源ノ確保

荒玉方面一五本、江戸川方面五本、城南方面五本、計二五本鑿井ス、井戸ハ深一〇〇米、徑三

〇〇耗トシ五〇馬力唧筒ニヨリ一本當リ一日約二、〇〇〇立米ヲ揚水ス

(二) 配水幹線相互連絡

城南地區ハ工場多ク重要ナル區域ニモ拘ラズ水量、水壓ニ乏シク平時ノ用水ニモ不足セル状態ナルヲ以テ淀橋—芝系統ヨリ幹線ヲ連絡シ之ヲ強化セントス

即チ芝區榮町芝給水場ヨリ南品川ヲ經テ大森區大森ニ至ル間八〇〇耗管六、三〇〇米、五〇〇耗管三、八八〇米ヲ敷設ス

補給水量ハ一日約三五、〇〇〇立米トシ管末ニ於テモ動水壓約二〇米ヲ保持ス

(三) 隣接都市水道トノ連絡

城南地區並城東地區工業地帯ニ對シ川崎市水道及千葉縣營水道トノ連絡ヲナス即チ川崎市宮内地内ノ川崎市水道一、〇〇〇耗管ト玉川淨水場間ヲ管徑一、〇〇〇耗管ヲ以テ六郷川ヲ伏越横斷連絡シ又市川橋ニ五〇〇耗管ヲ添架シ千葉縣營水道ト連絡ス

(四) 貯水池ノ増設

東京市ノ上水道ハ現在一日最大給水能力八七三、四六二立米ニシテ市内總貯水量ハ六一五、〇〇〇立米ナルガ故ニ約十七時間分ノ貯水量ニ相當ス

而シテ既設配水池ハ本都、金町、大谷口、野方、堰山、杉並、淀橋、西ヶ原、和田堀、芝、駒

澤、調布、矢口、池上、大井ニ偏在スルヲ以テ城東、城北、並ニ城南方面ニ對シ合計八個ノ貯水池ヲ新設ス

設置場所

- 荏原區 戸越町 瀧野川區 田端町
- 大森區 桐里町 下谷區 上野公園
- 蒲田區 古市町 本所區 錦糸町
- 瀧野川區 西ヶ原町 深川區 龜岡町

貯水池ノ容量ヲ二〇、〇〇〇立米トシ合計一六〇、〇〇〇立米ヲ確保シ各自二個ノ深井戸ヲ併設スルモノトス  
コレニヨリ全市ニ對スル貯水量ハ二一・三時間分トナル

(五) 消火栓ノ整備

現在ノ消火栓總數ハ二六、二五三個ニシテ其ノ平均間隔ハ一七五米ナリ  
然レドモ市内樞要地區ニ對シテハ更ニ強力ナル多口式消火栓ヲ配水本管(徑四〇〇耗以上)ニ直結シ以テ多量ノ水ヲ一時ニ放出セシム

設置場所

- 日本橋區 通二丁目 白木屋前 淺草區 雷門一丁目 松屋前
- 京橋區 銀座四丁目 交叉點 下谷區 上野廣小路 松坂屋前
- 京橋區 銀座七丁目 交叉點 下谷區 上車坂町 上野驛前
- 澁谷區 上通二丁目 澁谷驛前 四谷區 新宿三丁目 伊勢丹前
- 淺草公園 六區 四號地 本所區 綠町 交叉點

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
鑿井	二五ヶ所	一、五〇〇、〇〇〇 <small>円</small>	砲鋼管 一三八噸 電氣銅材 二六噸 鉛管 三噸 錫管 〇・三五噸	一ヶ所當リ工事費六〇、〇〇〇圓
○送配水幹線 相互連絡	一ヶ所	一、七〇〇、〇〇〇	鑄鐵管 三、三一噸 鋼管 一〇噸 鉛管 八噸	
○隣道接連絡市	二ヶ所	一、二五八、七〇〇	鐵鋼材 二、三六九噸 鐵鋼材 三、三二二噸 木セメント材 一、六一一立米	





水源ハ鑿井ニ依ルモノトシ一晝夜揚水量五、〇〇〇立米程度トス  
 供給水量 毎時約五〇〇立米ヲ目途トス  
 貯水池ハ容量約五〇〇立米ノモノ二個ヲ築造ス  
 揚水及送水ポンプハ高揚程用トシテ一〇〇馬力ニ臺並三〇馬力ニ臺、導配水管徑二〇〇—三〇〇耗  
 エタニットパイプヲ使用シ消火栓一〇〇—一五〇個ヲ取付クルモノトス

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
自家用水道	二五 <sup>ヶ所</sup>	二五五、八一 <sup>円</sup>	鐵鋼材	相互連絡設備二〇ヶ所(七〇館)引出設備五ヶ所(五館)
相互連絡	二五	二五五、八一 <sup>円</sup>	鐵鋼材	一ヶ所當リ工事費 一〇、二三二圓
貯水	槽 三九九	一、九九五、〇〇〇	鐵鋼材	一ヶ所當リ工事費 五、〇〇〇圓
防火水道		七、五〇〇、〇〇〇	鐵鋼材	一ヶ所當リ工事費 五〇〇、〇〇〇圓
計		九、七五〇、九〇〇	鐵鋼材	

第五節 消防活動ニ必要ナル施設

一、道路ノ整備

市内ニ散在スル消防上危險地區四二ヶ所ノ内、日暮里、尾久方面及ビ大森、蒲田方面ニ在ル一二地區ニ對シ幅員八米程度ノ街路二六路線ヲ新設ス、コレガ實施ニ當リテハ必要ナル移轉家屋ニ對シ居住者ヲ一時收容スル移動バラック二、〇〇〇戸ノ新設ヲ見込ミタリ  
 尙ホ街角剪除四〇〇ヶ所及ビ路上工作物ノ整理ヲ行フ

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
危險地區内	延長 二、八三六米	一四、五〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材	危險地區數 一二
道路新設		二、三〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材	全面積 二、二四七、三〇〇平方
移動バラック	二、〇〇〇戸	二、六八〇、〇〇〇	鐵鋼材	一戸當工事費 一、三四〇圓
			木	一戸當建坪 一、〇六坪
			鐵鋼材	敷地期間 八〇ヶ月
			木	電燈、水道、排水設備
			鐵鋼材	電燈、水道、排水設備
			木	電燈、水道、排水設備

工種	數量	工事費	資材	摘要
街角剪除	面積 四〇〇〇平米	一、二六五、〇〇〇 <sup>円</sup>	鋼材 三二〇〇立米	剪除長平均 五米
路上工作物整理	三八九件	三九、五一〇	セメント 四三・九噸	電柱、ポスト、變壓器
計		一八、四八四、六〇〇	鐵鋼材 一七・八噸	
			木セメント 四、六五〇立米	

二、自然水利接近施設

左ノ八ヶ所ニ消防自動車進入路ノ新設又ハ改良ヲ行フ

工種	數量	工事費	資材
隅田川筋	三ヶ所		
外濠	一ヶ所		
古川	二ヶ所		
古川	二ヶ所		
工事費及主要資材			
自然水利接近道路	八ヶ所	一六九、〇〇〇 <sup>円</sup>	セメント 一、〇六七噸

第六節 食糧品輸送ニ關スル施設

本題目ニ關シテハソノ性質上東京、横濱及川崎ヲ一括シテ調査セリ、而シテ食料品ニ關シテハソノ大宗タル米及蔬菜ヲ、燃料ニ關シテハ木炭ヲ調査ノ對象トシテ選定セリ。

一、現況

(一) 需給狀況

(イ) 所要量	米	蔬菜	木炭
	一ヶ年一人ニツキ	一ヶ年一人ニツキ	一ヶ年一世帯ニツキ
	一・〇石	〇・一噸 (果物ヲ含ム)	二〇俵
	トシテ帝都ノ人口ヲ凡ソ七〇〇萬、世帯數一、四五〇、〇〇〇 (一世帯當リ四・八人)、横濱、川崎ノ人口ヲ計百五十三萬、世帯數二七七、〇〇〇 (一世帯當リ横濱四・八人、川崎五・一人) トシテ所要量ヲ算出スレバ第一表ノ如シ		

第一表

一ヶ年所要量

一日所要量(平均)

備考

品目	東 京			東 京			備 考
	東 京	横 濱	川 崎	東 京	横 濱	川 崎	
米	七、〇〇〇、〇〇〇噸	一、三三〇、〇〇〇噸	一、三三〇、〇〇〇噸	三、〇〇〇噸	三、〇〇〇噸	三、〇〇〇噸	蔬菜、果物ノ割合ハ八〇對二〇トス
蔬菜	七〇〇、〇〇〇噸	一三三、〇〇〇噸	一、九三〇噸	一、九三〇噸	三七〇噸	三七〇噸	蔬菜、果物ノ割合ハ八〇對二〇トス
木炭	二九、〇〇〇、〇〇〇噸	四、一五〇、〇〇〇噸	六四、五〇〇噸	八〇、〇〇〇噸	一、二〇〇噸	一、五三〇噸	自動車燃料ヲ含マズ
註	自動車燃料木炭ハ概テ家庭燃料ノ一〇%トスレバ木炭所要量ハ上記ノ一・一倍トナル						
(ロ) 入荷状況	(1) 輸送機關別入荷割合						
品目	米			蔬菜			木炭
陸運	東京	横濱	川崎	東京	横濱	川崎	東京
陸運其他	六〇・八	八八	九七	八二〇〇	六七二	七二二	横濱
海運	四〇・二	一〇	一	一一	一一	八	川崎
計	一〇〇・〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	川崎

(2) 月別入荷状況

米月別入荷割合(昭和一四年度)

第三表

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
内地米	九〇	六〇	六三	八〇	八六	八二	八七	七二	六八	七三	二一	二三	一〇
東 鮮米	三九三	一三三	一三三	三三三	一〇	五二	五七	六三	三六	〇四	一〇	〇	二〇
東 灣米	一四九	七八	七八	〇三	一九	六七	一三五	一七九	一八五	二八	〇六	二三四	一〇
京 總入荷	二二六	七〇	六三	七八	六九	七七	九二	八九	八四	六〇	八六	二二七	一〇
備考	内地米ハ鐵道ニ依リ鮮米、灣米ハ船舶ニ依リ直接東京到着トス												

蔬菜類月別入荷割合

第四表

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
東 京	五二	六〇	七〇	六四	八六	八二	九七	九三	八七	九〇	九〇	一三〇	一〇
横濱・川崎	四八	五四	六七	六三	八三	九五	一〇六	二二三	八四	九三	九〇	一〇六	一〇
木炭月別入荷割合(昭和十五年度)													

第五表

月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
東京	二・八	九・九	八・三	六・八	七・三	五・六	五・三	五・一	四・六	七・八	一六・三	一一・三	一〇〇
横濱	二・三	二・二	一〇・七	六・四	六・四	六・四	六・四	六・四	六・四	七・九	九・五	一一・一	一〇〇
川崎	三・〇	三・〇	一〇・四	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	六・三	七・四	九・〇	一一・〇	一〇〇

(二) 輸送概況

(イ) 主要生産地

内地米及木炭ノ供給ハ其ノ大半ヲ東北地方ニ依存ス、蔬菜ハ關東諸縣ヲ主要生産地ト看做スコトヲ得、東京ニ對スル内地米移出縣ヲ示セバ次ノ諸表ノ如シ、猶別ニ鮮米及灣米ノ移入アリ

第六表 (米)

縣別	新潟	宮城	秋田	山形	千葉	岩手・青森其他	計
百分率	二〇	一三	一二	一一	六	三八	一〇〇

第七表 (蔬菜)

縣別	東京	埼玉	愛知	千葉	神奈川	静岡	其他	合計
百分率	二〇・〇	一七・八	一六・四	一一・二	八・四	〇・九	二四・三	一〇〇

第八表 (木炭)

地方別	百分率	備考
東北地方	五五	内岩手三〇、青森六、福島一八
北海道地方	一五	
關東地方	一三	内栃木九
中部地方	六	内長野五
其他地方	一一	
合計	一〇〇	

(ロ) 輸送系統

輸送系統ハ生産地トノ關聯ニ於テ大體ヲ推測スルニ難カラズ、即米及木炭ニ就テノ東北、常磐ノ二線ガ主要系統ニシテ、蔬菜類ハ道路ガ輸送路トナル内地米ノ輸送系統第九表ノ如シ

第九表

路線別	東京	横濱(川崎)	註
東北線	七五	八〇	羽越線、信越線經由ヲ含ム
常磐線	一七	一五	

路線別	東京	横濱(川崎)	註
總武線	五	五	
東海道線	三	〇	
計	一〇〇	一〇〇	

(六) 倉庫

(1) 收容能力

東京市内ノ倉庫ニ關シテ正確ナル資料ヲ有セザルモ過去ノ実績ニ徴スルニ營業倉庫ノミニテ約三〇、〇〇〇噸ノ米ヲ收容セルコトアルモノノ如ク、以テソノ一端ヲ窺ヒ得ベシ、猶米穀専用貯藏庫トシテハ農林省ノ米穀倉庫ノ外、秋葉原高架線下ノ營業倉庫位ノモノナリ

(2) 分布状態

東京市内ノ倉庫ハ概ネ東京港域、隅田川、及運河筋ニアリ、之ヲ各區別ニ面積比率ヲ求ムレバ第十表ノ如シ

區別	百分率	備考
京橋	三二・〇	
深川	二五・〇	

第十表

備考

日本橋	二〇・〇	
芝田	一五・五	
神田	四・五	高架線ト倉庫
其他	三・〇	
計	一〇〇・〇	

横濱市ニ於テハ第十一表ノ如シ

第十一表

區別	百分率	備考
中	六〇	
神奈川	三七	
鶴見	三	
計	一〇〇	

川崎市内ハ日滿埠頭ニ五〇%ヲ有ス

二、輸送對策

(イ) 食糧燃料ノ絶對所要量

非常時下ニ於テハ消費規制ノ強化、市民ノ一部ノ退去等ニヨリ生活必需品ノ所要量ハ平常時ニ比

シ壓縮セラルルコトハ推測セラルルトコロニシテ、概要次ノ如シ

即チ米ニ就テハ一般消費規制ヲ一〇%トシ、残留者ニ老幼者ノ比率小ナル事ニヨル市民一人當リ消費量ノ増加ヲ二五%トスレバ残留者一人當リノ消費量ノ増加一五%トナル、從テ東京ニ就テハ残留者ガ五〇〇萬人ナルヲ以テ結局一日ノ所要量ハ平時ノ三、〇〇〇噸ニ對シ二、五〇〇噸トナル、同様ニシテ横濱、川崎ニ對シテハ平時ノ五七〇噸ニ對シ四八〇噸トナル

(ロ) 輸送施設ノ防護並應急修理對策

現況ニヨレバ前項ノ所要量ニ對シ貯藏能力充分ナラザルヲ以テ鐵道及港灣等ノ輸送路ノ確保ガ絶對必要ノ條件トナル、就中東北、常磐ノ二幹線ハ特ニ重視サルベク、之ガ破壊セラレタル場合ノ復舊工程ノ遅速ハ重大ナル影響ヲ及スベシ、ヨツテ第二節及第三節ニ舉ゲタル之等重要施設ノ防護及應急修理體制ノ整備ニ完璧ヲ期スルト共ニ迂迴輸送ノ對策ヲ樹立スルヲ要ス

(ハ) 貯藏施設

現況ニヨル倉庫ノ貯藏能力ハ輸送施設復舊ニ要スル數日間ノ遅延ニ對應シテハ概ネ遺憾ナキ状態ニアルモ尙増強ヲ計ルト共ニ、現在ノモノガ分布上ヨリ見テ防空的ナラザルヲ以テ、可及的分散ルヲ要ス

(ニ) 小運送施設

蔬菜類ハ多ク近在ヨリノ生産ニ依存スルニ徴シ、又米、木炭等ノ貯藏配給ニ就テモ小運送ヲ要スル事多キヲ以テ自動車其他ノ運送機關及之ニ要スル燃料、勞力ノ確保方策ヲ確立シ置クヲ要ス

第七節 退去及避難ニ關スル施設

一、退去

退去ニ關シテハ東京、横濱、川崎ヲ一括シテ調査セリ而シテ鐵道輸送能力ノ算定ニ關シテハ左ノ如ク想定ス

- (一) 一般輸送ハ平常通り繼續スルモノトス
- (二) 車輛及從業員ハ他地方ヨリノ融通ヲ考ヘザルモノトス
- (三) 臨時列車ハ運行セザルモ豫備車ハ各列車ニ増結スルモノトス
- (四) 從業員ハ年間最大繁忙時ノ勤務程度トス
- (五) 一般旅客ハ年間一日平均數ノ三〇%程度減少スルモノト見做シ又各列車ノ收容能力ハ定員數ノ三〇%超過ヲ認ムルコト

(一) 退去該當者總數左ノ如シ

(イ) 種類別 (昭和一六年度)

第一表

種別	東京市	横濱市	川崎市	合計
老者	二二五、〇〇〇人	一三、四〇〇人	二、八〇〇人	二四一、二〇〇人
幼者	一、七〇〇、〇〇〇	一三三、九〇〇	四三、四〇〇	一、八七七、三〇〇
病者	七五、〇〇〇	三、五〇〇	一、二〇〇	七九、七〇〇
不具者	二五、〇〇〇	九〇〇	二〇〇	二六、一〇〇
妊婦	七五、〇〇〇	四、五〇〇	二、二〇〇	八一、七〇〇
保護者	四〇〇、〇〇〇	五三、八〇〇	一五、九〇〇	四六九、七〇〇
計	二、五〇〇、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	六五、七〇〇	二、七七五、七〇〇

(ロ) 退去先ノ有無別(昭和一六年度)

第二表

種別	東京市	横濱市	川崎市	合計
退去先アル者	一、九〇〇 <small>千人</small>	一六五 <small>千人</small>	六〇 <small>千人</small>	二、一二五 <small>千人</small>
退去先ナキ者	六〇〇	四五	六	六五一
計	二、五〇〇	二二〇	六六	二、七七六

(ハ) 退去先アル者ノ方向別(昭和一六年度)

第三表

種別	要府縣	東京市	横濱市	川崎市	計
北・常磐	靜岡外二十六	三〇〇 <small>千人</small>	四三 <small>千人</small>	一〇 <small>千人</small>	三五三 <small>千人</small>
高崎線	東北、茨城、栃木縣及北海道	五五〇	四九	二五	六二四
中央線	群馬外四縣	四〇〇	二五	一一	四三六
總武線	山梨縣	八〇	二〇	六	一〇六
其他	千葉縣	二一〇	一六	五	二三一
計	東京府、神奈川縣、埼玉縣	一、七〇〇	一六五	六〇	二、一二五

(二) 輸送能力(輸送餘裕能力)概數左ノ如シ

(イ) 國有鐵道

第四表

路線名	列車ニ依ルモノ(概數)	電車ニ依ルモノ(概數)
東海道線(横濱以西)	七〇、二〇〇人	三六、六〇〇人
東北線(大宮以東)	一二、九〇〇	
常磐線(松戸以東)	二〇、九〇〇	六五



路線名	列車ニ依ルモノ(概數)	電車ニ依ルモノ(概數)
高崎線 (大宮以北)	二六、六〇〇 <sup>人</sup>	四二、一〇〇
中央線 (新宿以西)	六、七〇〇	五六、九〇〇
總武線 (兩國以東)	一六、一〇〇	一三五、六〇〇
計	一五三、四〇〇	

註 鐵道ノ能力ハ之ニ依リ限定サルルモ運轉材料、乗務員等ノ融通ニヨリ線路別能力ハ多少高メ得ベシ

(ロ) 地方鐵道

第五表

路線名	輸送能力	備考
西武 (川越迄)	九五、〇〇〇 <sup>人</sup>	
武藏野 (飯能迄)	一一七、〇〇〇	
東武 (伊勢崎迄)	一〇八、一〇〇	
京成 (成田迄)	一一七、〇〇〇	
京濱湘南	一〇八、一〇〇	省線ニ至ル補助機關トシテ使用
東横	三〇、二〇〇	
鶴見臨港		

神中	南武
五、五〇〇	二、五〇〇

(ハ) バス

、バスハ東京市内舊市部ヲ運轉スルモノヲ晝間閑散時ニ限り退去輸送ニ使用スルモノトス、其ノ他ノ地區ハ在來ノ儘存置シ、補助機關トシテ使用ス

臺數	約
總人員	約 一、〇〇〇臺
	約 二〇、〇〇〇人 (一臺平均二〇人トス)

(ニ) 船舶

船舶ニヨル退去ハ目的地ガ限定サレルヲ以テ此處ニハ特ニ考慮セズ

(三) 退去者ヲ輸送シ了ルニ要スル日數ヲ算定スルニ左ノ如シ

路線名	總數 <sup>千人</sup>	能力 <sup>千人</sup>	日數
東海道	三五三	七〇・二	五
東北常磐	六二四	三三・八	一九
高崎	四三六	二六・六	一七
中央	一〇六	六・七	一六
總數		六七	

路線名	總數	能力	日數
總武	二三一 千人	一六・二 千人	一五
其他	三七五		
其ノ他ノ地區ニ向フ退去者ハ地方鐵道及バスヲ以テ四日乃至一〇日ヲ以テ輸送シ了ル見込ナリ			

二、避難

(一) 事前避難

事前避難ニ關シテハ六大都市及川崎市、北九州五市及下關市並ニ新潟ノ一四都市ニツキ調査ス、避難人員ニ關シテハ老幼病者等ニシテ退去先ナキ者及退去先アルモ退去シ得ザル者ヲ對象トス、事前避難施設トシテハ人家稠密シ各戸ニ施設シ得ザル防空上危險地區ニツキ簡易防空壕ヲ設置スルモノトス

要防護人員即チ老幼病者等ニシテ殘存スル者ハ退去先ノ有無ニ關セズ該當者ノ半分ト想定スレバ各市別人員左ノ如シ

(イ) 都市別要防護人員

第一表

都市名	老幼病者等	危險地區内老幼病者等	人員	要防護人員	既存ノ施設ニ收容シ得ル人員	要施設人員
東京	二、五〇〇	六〇	一、五〇〇	七五〇	五〇	七〇〇
横浜	二一〇	四三	九〇	四五		四五
川崎	六六	四五	三〇	一五		一五
新潟	五三	三〇	一六	八		八
名古屋	六〇九	三六	二二〇	一一〇		一一〇
大阪	一、三〇〇	四三	五六〇	二八〇		二八〇
神戸	三六〇	五五	二〇〇	一〇〇		一〇〇
京都	二五〇	二四	六〇	三〇		三〇

(ロ) 築造スベキ防空壕、工事費及主要資材等左ノ如シ

第二表

都市名	數量	工事費	鐵鋼材	木材
東京	七〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	二一・〇	七〇、〇〇〇
横浜	四、五〇〇	四五〇、〇〇〇	一・五	四、五〇〇

都市名	數量	工事費	鐵鋼材	木材
川崎	一、五〇〇 <sup>個</sup>	一五〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	〇・五 <sup>噸</sup>	一、五〇〇 <sup>立米</sup>
新潟	八〇〇	八〇、〇〇〇	〇・五	八〇〇
(小計)	七六、八〇〇	七、六八〇、〇〇〇	二・三・五	七六、八〇〇
大阪	二八、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇	八・四	二八、〇〇〇
神戸	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三・〇	一〇、〇〇〇
京都	三、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一・〇	三、〇〇〇
名古屋	一、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	三・三	一、〇〇〇
(小計)	五二、〇〇〇	五、二〇〇、〇〇〇	一五・七	五二、〇〇〇
門司外五市	九、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	二・七	九、〇〇〇
總計	一三七、八〇〇	一、三七八、〇〇〇	四一・九	一三七、八〇〇

備考 防空壕ノ配置ハ隣保組織ヲ基準トス、故ニソノ大サハ隣組ノ人員凡六〇名中老幼病者等約二〇名ノ中残留者ヲソノ半分トシ收容人員ヲ一〇名程度トス

(二) 緊急避難

緊急避難ニ關シテハ被害地區市民ノ全般ニ對シテ考慮スルヲ要シ可及的既存ノ施設ヲ利用スルモノトスルモ、例ヘバ東京下町地區ノ如ク著シク空地ノ不足セル地區ニ對シテハ空地ヲ整備スルモノ

トス

整備スベキ空地ノ箇所數、工費左ノ如シ

第三表

都市名	工種	數量	工事費	資材	摘要
東京	疎開空地	五	一五、〇〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>		一ヶ所當リ 三百萬圓
横浜	防空公園	六	二、一七五、〇〇〇		三六二、五〇〇圓
川崎	"	三	九〇〇、〇〇〇		三十萬圓
計		一四	一八、〇七五、〇〇〇		

## 第二章 横濱・川崎地方

### 第一節 工事費及主要資材

#### 工事費及主要資材總括

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
重要施設ノ防護及補強	一、三〇六、七〇〇 <small>円</small>	四〇四 <small>噸</small>	三九〇 <small>立米</small>	一四一 <small>噸</small>
應急修理用資材ノ確保	一、一〇六、四〇〇	一、二〇三	三、一九五	八三六
消防及飲料用水利ニ關スル施設	四、九八六、二〇〇	六、六六八	八六五	一三、七〇一
消防活動ニ必要ナル施設	七、一四二、四〇〇	五六	一、二五九	一、六一七
退去及避難ニ關スル施設	三、六七五、〇〇〇	二	六、〇〇〇	—
計	一八、二一六、七〇〇	八、三三三	一一、七〇九	一六、二九五

#### 一、重要施設ノ防護及補強

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
鐵道	三、四二、六〇〇 <small>円</small>	三六四 <small>噸</small>	三六九 <small>立米</small>	一三九 <small>噸</small>
國有				
公私設				

工	水	港	石
道	道	油	計
上	下	タ	
水	水	ン	
水	水	ク	
工	工		
事	事		
費	費		
七五五、三〇〇 <small>四</small>	一五八、〇〇〇		
四五〇、八〇〇	一、三〇六、七〇〇		
鐵鋼材	鐵鋼材		
四〇〇 <small>四</small>	四〇四		
木材	木材		
一九 <small>立業</small>	三九〇		
セメント	一四一		
二 <small>四</small>			

二、應急修理用資材ノ確保

工	鐵	水	港	河
道	道	道	道	計
國	上	下	運	
有	水	水	河	
設	路	灣	灣	
設	設	設	設	
工	工	工	工	
事	事	事	事	
費	費	費	費	
六三三、〇〇〇 <small>四</small>	七二、〇〇〇	二三四、四〇〇	一三七、〇〇〇	一、一〇六、四〇〇
八九一	九	二九一	八	一、二〇三
鐵鋼材	鐵鋼材	鐵鋼材	鐵鋼材	鐵鋼材
一、三三四 <small>立業</small>	三九五	四九	一、三三八	四
木材	木材	木材	木材	木材
七九	七九	三、一九五	七九	三、一九五
セメント	セメント	セメント	セメント	セメント
二	八三四	八三六	二	八三六

三、消防及飲料用水利ニ關スル施設

工	上	自	人
道	水	然	工
施	利	水	水
設	用	利	利
設	施	施	施
工	工	工	工
事	事	事	事
費	費	費	費
三、七四七、二〇〇 <small>四</small>	四三、〇〇〇	一、一九六、〇〇〇	四、九八六、二〇〇
鐵鋼材	鐵鋼材	鐵鋼材	鐵鋼材
三、五四六 <small>四</small>	一五	三、一〇七	六、六六八
木材	木材	木材	木材
八六五	八六五	八六五	八六五
セメント	セメント	セメント	セメント
九、七六四 <small>四</small>	一三八	三、七九九	一三、七〇一

四、消防活動ニ必要ナル施設

工	道	自
路	路	路
ノ	ノ	ノ
整	整	整
備	備	備
工	工	工
事	事	事
費	費	費
六、九三七、四〇〇 <small>四</small>	二〇五、〇〇〇	七、一四二、四〇〇
鐵鋼材	鐵鋼材	鐵鋼材
五六 <small>四</small>	五六	五六
木材	木材	木材
一、二〇四 <small>立業</small>	五五	一、二五九
セメント	セメント	セメント
一、五三五 <small>四</small>	八二	一、六一七

第二節 重要施設ノ防護及補強 (〇印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

一、鐵道、軌道

横濱・川崎地方ニ於ケル國有鐵道ニ關シテハ東京ノ部ニ考慮セリ  
 公私設鐵道ニ關シテハ京濱電鐵、東横電鐵、湘南電鐵、南武鐵道、鶴見臨港鐵道、神中鐵道、横濱

市電等七種ノ地方鐵道及軌道アリ、何レモ都市活動ノ動脈ヲナス、重要施設ナルヲ以テソノ機能保持ノ爲メ左記要領ニヨリ防護對策ヲ講ズルモノトス

(一) 驛施設、車庫、變電所等ノ防護偽裝並ニ防火設備ノ充實

(二) 高架線、橋梁、隧道ノ補強並ニ偽裝

(三) 折返線ノ増設

(四) 路線相互連絡ノ側線ノ新設

工事費及主要資材(公私設鐵道)

工種	數量	工事費	資材	摘要
京濱電鐵		六五、三七四、〇〇 <sub>円</sub>	鐵鋼材 一三、二三一 木麻セメント材 三、六五〇 袋袋 立米噸	
東橫電鐵		一三、三四八	鐵鋼材 一、五〇六 木麻セメント材 二、〇〇〇 袋袋 立米噸	
湘南電鐵		六〇、三〇四	鐵鋼材 一、五三六 木麻セメント材 五、二六八 袋袋 立米噸	内枕木一、二〇〇挺

鐵道名	數量	工事費	資材	摘要
南武鐵道		一四一、四八〇	鐵鋼材 一、五〇〇 木麻セメント材 三、六四七 袋袋 立米噸	内枕木五、三四〇丁
鶴見臨港鐵道		三五、五九二	鐵鋼材 一、四七〇 木麻セメント材 三、五五二 袋袋 立米噸	
神中鐵道		七、二九六	鐵鋼材 〇、七五〇 木麻セメント材 一、六〇〇 袋袋 立米噸	内枕木 二〇〇丁
橫濱市電		一九、一八五	鐵鋼材 一、七〇〇 木麻セメント材 七、〇〇〇 袋袋 立米噸	
計		三四二、六〇〇	鐵鋼材 三、六六四 木麻セメント材 一、三六八 袋袋 立米噸	内枕木七、六五〇丁

二、道 路

横濱・川崎兩市ニ通ズル基本道路網並ニ之等路線ニ對スル迂回線ヲ決定シ之ヲ確保センガ爲メ重要府縣道五路線ノ改良ヲ必要トスレドモ（此ノ工事費九、五〇〇、〇〇〇圓）緊急施策ノ範圍ヲ逸脱スル嫌アルヲ以テ別途考究スルモノトス

三、上 下 水 道

本地區ニ於テハ横濱市上水道、川崎市上水道、川崎工業用水道ニ就キ左記事項ヲ行フモノトス

(一)横濱市上水道

(イ)西谷浄水場急速濾過池上屋ノ迷彩

(ロ)鶴見配水塔迷彩

(二)川崎市上水道

(イ)稻田水源電源豫備施設

(ロ)生田浄水場急速濾過池上屋ノ迷彩及ビ昇降階段偽裝並ニ代用道路新設

(三)川崎工業用水道

(イ)導水管ト配水本管トノ直接連絡

(ロ)浄水場ノ偽裝

工事費及主要資材

工 種	數量	工事費	主要資材	摘 要
浄水場及配水塔迷彩	二ヶ所	九、二二六	鐵鋼材 一〇噸 セメント 一六立米	横濱上水道 川崎上水道
動力源強化及浄水場偽裝等	二ヶ所	七三一、〇〇〇	鐵鋼材 三噸 鉛 一噸 木 三立米	川崎工業用水道
導配水管ノ連絡及浄水場偽裝	二ヶ所	一五、〇〇〇	鐵鋼材 四噸 鉛 一噸 セメント 一九立米	
計		七五五、三〇〇		

四、發送電施設

本地區ノ發送電施設ニ就テハ東京地方ニ一括考慮セリ

五、港 灣

横濱港ハ本地域ニ於ケル最モ重要ナル施設ノ一ツニシテ空襲ニヨリソノ機能ノ停止又ハ激減ハソノ影響スルトコロ極メテ廣汎且深刻ナルモノアリ、時局ニ鑑ミ港灣諸施設全部ニ互リ防空的改善整備ヲナスヨリ最重要對策トスルモ此ガ完成ニハ長時日ヲ要スルヲ以テ取敢ヘズ左ノ對策ヲ緊急ニ實施セ

ントス

(一) 港口閉塞ニ備ヘ東水堤頭部一五〇米ノ左右ヲm-10ニ浚渫ス

(二) 重要埠頭ニ四ヶ所ノ防空壕ヲ設ク

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
浚渫工	五〇、〇〇〇 <sup>立米</sup>	五〇、〇〇〇 <sup>円</sup>		
防空壕	四	八〇〇	木材 二立米	
計		五〇、八〇〇	木材 二立米	

六、石油タンク

横濱市神奈川區鶴見區及比川崎市扇町方面ニ多數密集セル石油タンクニ就キ左記要領ニヨリ對策ヲ講ズ

(一) 主要タンクニ迷彩ヲ施ス

(二) 泡沫消火施設ノ充實

(三) 防護塙ノ設置

(四) 豫備タンクノ設置

等ガ考慮セラルルモ取敢ズ一萬噸以上ノ油槽ニ就キ迷彩塗裝ヲ施スモノトス

工事費及重要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
塗裝	三三〇、〇〇〇 <sup>平米</sup>	一五八、〇〇〇 <sup>円</sup>	ペイント 三六噸	

第三節 應急修理用資材ノ確保

一、鐵道、軌道

横濱・川崎地方ニ於ケル國有鐵道ニ就イテハ東京ノ部ニ於テ一括考究セリ。

公私設鐵道ニ就テハ京濱電鐵、東横電鐵、東横電鐵、湘南電鐵、南武鐵道、鶴見臨港鐵道、神中鐵道、横濱市電ノ七ツノ地方鐵道或ハ軌道アリ、ソノ驛施設、線路、橋梁、高架線、變電所其ノ他重要施設ニ對シ適當ナル想定ノモトニ空襲ニヨル被害ヲ考慮シ之ニ必要ナル應急修理資材、機器、勞力等ニツキ調査セリ。

工事費、主要資材及勞力(公私設鐵道)

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
京濱電鐵	一一〇、〇〇〇 <sup>円</sup>		鐵鋼材 三七五噸 木枕材 三三〇立米 空依 一、三〇〇枚 麻袋 三〇〇〇枚	三八〇人	内枕木 五、〇〇〇丁



工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
東横電鐵	六〇、〇〇〇 <sub>円</sub>	六〇、〇〇〇 <sub>円</sub>	空木鐵鋼材 依材	一、五〇〇人	内枕木 一、九〇〇丁
湘南電鐵	六四、〇〇〇	六四、〇〇〇	空木鐵鋼材 依材	六〇人	内枕木 三、〇〇〇丁
南武鐵道	四一、〇〇〇	四一、〇〇〇	木鐵鋼材	四〇〇人	内枕木 一二〇丁
鶴見臨港鐵道	二六五、〇〇〇	二六五、〇〇〇	空木鐵鋼材 依材	三、〇九〇人	内枕木 二、七五〇丁
神中鐵道	三八、〇〇〇	三八、〇〇〇	空木鐵鋼材 依材	一、七六〇人	内枕木 一、二〇〇丁
横濱市電	五五、〇〇〇	五五、〇〇〇	木鐵鋼材	五〇〇人	内枕木 二、〇〇〇丁
計	六三三、〇〇〇	六三三、〇〇〇	木鐵鋼材	六、三四〇人	内枕木 一五、九七〇丁

二、道路

(イ)一號國道ノ交通確保ノタメ六郷橋鶴見橋ノ應急修理用資材ヲ確保ス  
 (ロ)前項橋梁以外ノ橋梁ニ對シテハ延長三〇米分ノ假橋(木橋)ノ資材ヲ用意ス

工事費、主要資材及勞力

工種	工事費	資材	勞務者	摘要
川崎市六郷橋修理	四五、〇〇〇 <sub>円</sub>	舟玉砂木鐵鋼材 石利材	一、五〇〇人	
横濱市鶴見橋修理	二〇、〇〇〇	舟玉砂木鐵鋼材 石利材	六〇〇人	
一般橋梁用	七、〇〇〇	木鐵鋼材	八五〇人	延長 三〇米分
計	七二、〇〇〇	木鐵鋼材	二、九五〇人	

三、上下水道

左記施設ノ應急修理對策ヲ講ズ

- (イ)横濱市上水道 青山水源地、大島水源地、西谷淨水場、市内配水諸施設
- (ロ)横濱市下水道

下水管渠

(一)川崎市上水道

水源地、浄水場、送水管、配水管、建物

(二)川崎市工業用水道

沈澱池、配水唧筒室、配水管並ニ支管

工事費、主要資材及勞力

工種	工事費	資材	勞務者	摘要
横濱上水道修理	六五、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 二二 鉛鋼材 二二 木セメント 二二 砂利 二二 吹砂 二二	八〇〇人	
横濱下水道修理	五五、〇〇〇	鐵鋼材 二一 砂利 一七 砂セメント 七 陶管延長 四 陶管 五	一、六〇〇人	混凝土管 四五〇—一、〇〇〇分 陶管 七〇〇分 陶管延長 三〇〇分
川崎上水道修理	九四、三四〇	鐵鋼材 七 木セメント 一 砂利 六 砂 二 木セメント 二 利材 五	七、〇〇〇人	

川崎工業用水道修理

二〇、〇〇〇<sup>円</sup>

鐵鋼材 一  
鉛鋼材 〇  
砂利 一  
砂 一

一六  
〇五  
〇〇  
一〇  
立立立立  
米米米米

一、五〇〇人

四、港灣

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
計	二三四、四〇〇		鐵鋼材 八 木セメント 二 鐵鋼材 三 木セメント 四		
港灣施設修理	一一七、〇〇〇 <sup>円</sup>		鐵鋼材 七 木セメント 〇 木セメント 〇 木セメント 〇	潜水夫 一日二〇組 常備夫 一日三〇人	岸壁延長五〇米 高天端一五米 五島町一號棧修理
假橋工事	八〇〇米	二〇、〇〇〇	鐵鋼材 一 木鋼材 二 木鋼材 三	大工 一、〇七〇人 潜水夫 二、二七〇人	鐵道橋九〇米 路橋八〇米修理
計	一三七、〇〇〇		鐵鋼材 八 木セメント 三 木セメント 三 木セメント 三	潜水夫 二、二七〇人 大工 一、〇七〇人 潜水夫 二、二七〇人	

五、河川、運河

(イ)多摩川、鶴見川ノ堤防或ハ護岸ノ破壊ニ對シテハ直チニ水防ニ準ジ氾濫ヲ防ギ樋門、水門ノ破壊ニ對シテハ木造ヲ以テ應急修理ス

(ロ)市内小河並ニ運河ニ關シテハ護岸及物揚場ノ破壊サレタル場合ハ舟航ヲ阻害セザル程度ニ取除キ増破ノ恐レアルモノハ杭打板柵ニヨリ防護ス

工事費、主要資材及勞力

工種	工事費	資材	勞力	摘要
堤防、護岸樋門、水門、物揚場復舊	三〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 三・六噸 木材 七九立米	三、〇〇〇人	

第四節 消防及飲料用水利ニ關スル施設 (〇印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

横濱市

(一)上水道施設

横濱市上水道ハ市勢ノ發展ト共ニ其ノ普及率七八%ニ及ビ其ノ需要量ハ逐年著シキ増加ヲ示シ既ニ昭和十五年夏季ニ於ケル一日最大配水量ハ二三三、五〇〇立米ニ達シ茲一、二年ヲ出デズシテ給水ノ不足ヲ告グルニ至ルベキ状態ナリ

(イ)配水幹線ノ相互連絡

西谷淨水場ヨリノ市内配水管ハ本牧幹線(九一〇耗)鶴見幹線(九〇〇耗)高區幹線(六一〇耗)蒔田幹線(六一〇耗)野毛山送水幹線(五一〇耗)及川井幹線(二〇〇耗)ノ六幹線ヨリ成リ各々其ノ配水區域ヲ分擔シ枝管ニ於テ相互連絡シアリト雖モ配水幹線ノ爆破セラレタル場合ニ應ズル爲配水幹線中左ノ箇所ニ於テ相互連絡ヲナスモノトス即チ保土ヶ谷區佛向町地内ニ於テ鶴見、本牧及蒔田ノ各幹線ノ連絡並ニ本牧及高區ノ兩幹線ヲ連絡シ保土ヶ谷區和田町地内ニ於テ本牧及蒔田ノ兩幹線ヲ連絡シ保土ヶ谷坂本町地内ニ於テ鶴見及神奈川ノ兩幹線ヲ連絡シ保土ヶ谷區岩間町地内ニ於テ蒔田及磯子ノ兩幹線ヲ連絡シ保土ヶ谷區峰岡町地内ニ於テ鶴見及神奈川送水幹線ヲ連絡ス

(ロ)隣接都市水道トノ連絡

鶴見區内配水本管(九〇〇耗)ト川崎市配水本管(九〇〇耗)トヲ連絡スル爲管徑七〇〇耗管ヲ第一京濱國道内ニ敷設セルモノニシテ其ノ延長三、四八〇米トス

(ハ)配水池ノ増設

既設配水池ハ西谷(六池)野毛山(二池)鶴見及川井ノ四箇所合計一〇池ヨリ成リ其ノ全有效貯水量ハ一〇〇、〇〇〇立米ニシテ一日最大配水量ニ對シ約十時間分ナルモ非常變災時ニ於ケル給水ノ安全ニ資スル爲磯子、神奈川及戸塚ノ三箇所ニ於テ配水池ヲ増設シ尙西谷淨水場ニ近接シ

高區配水池ヲ増設ス

此ノ増加貯水量ハ五八、五四〇立米ニシテ現在設備ヲ併セ合計一五八、五四〇立米トナリ一日最大配水量ニ附シ約十六時間分トナル

工事費及主要資材

工種	数量	工事費	資材	摘要
配給幹線相互連絡	一三五、〇〇〇 <sup>円</sup>		鑄鐵管 鐵管 鉛管 セメント塊材	三三〇〇噸 一一〇〇噸 三七二噸
隣接都市水道連絡	五九〇、〇〇〇		鑄鐵管 鐵管 鉛管 セメント塊材	一、〇九二噸 四、九二五噸 一、九七〇噸
配水池	二、〇二二、二〇〇		鐵鋼材 砂利 セメント	磯子配水池 七一九、七〇〇圓 神奈川配水池 八三七、六〇〇圓 戸塚配水池 一七六、五〇〇圓 西谷高區配水池 二八八、四〇〇圓
計	二、七四七、二〇〇		鐵鋼材 セメント	七、三九一噸 七、五二四噸

(二) 自然水利利用施設

工事費及主要資材

工種	数量	工事費	資材	摘要
呼水設備	九箇所	九、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント	一三噸 一八噸
河水堰止	一七箇所	三四、〇〇〇	鐵鋼材 セメント	一二噸 一〇噸
計		四三、〇〇〇	鐵鋼材 セメント	一五噸 一三噸

(三) 人工水利施設

工事費及主要資材

工種	数量	工事費	資材	摘要
貯水槽	二〇〇 <sup>個</sup>	七六〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント 木材	二、六〇〇噸 五、六〇〇噸 一箇所當リ工事費 三、八〇〇圓

川崎市

(一) 上水道施設

川崎市ニ於ケル上水道ハ全市ニ對シ其ノ普及率約七三%ニ及ブモ其ノ給水能力ハ一日最大五〇、〇〇〇立米ニシテ一朝有事ニ際シ未ダ充分ナラズ

(イ) 隣接都市水道トノ連絡

川崎市ト東京市トノ連絡ハ東京市ニ於テ川崎市ト横濱市トノ連絡ハ横濱市ニ於テ計上シアルヲ以テ其工事費ヲ省略ス

(ロ)貯水池ノ新設

現在一日最大配水能力ハ五〇、〇〇〇立方米ニシテ既設總貯水量ハ一四、〇〇〇立方米ナルガ故各池満水ノ場合ニ於テ約六時間餘ノ貯水量ニ相當シ一朝有事ノ際ハ憂慮スベキ状態ニアルヲ以テ更ニ二〇、〇〇〇立方米ヲ貯水シ得ル配水池ヲ久地伊矢ノ女山上ニ施設セントス、コレニ依リ全市ニ對スル貯水量ハ約一五時間分トナル

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
○配水池	二箇所	一、〇〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 鐵管類 セメント	七五 八〇 二四〇	一〇、〇〇〇立方米ノモノ二池ヲ新設ス 鐵鋼材合計一五五噸

(二)人工水利施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
○貯水槽	一〇九 <sup>個</sup>	四三六、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント 木	二、五〇七 一、一九九 三〇五	一箇所當リ工事費 四、五〇〇圓

第五節 消防活動ニ必要ナル施設

横濱市

市内道路ノ状態ヲ見ルニ震災後復興事業施行地域内道路ニ關シテハ新設又ハ改善ヲ必要トスルモノナク其他ノ地域特ニ舊市内ニテ道路幅員狹隘ナルタメ消防自動車出入困難ナル地域ハ本市重要区内ニ四十八箇所ヲ算スル現状ナルヲ以テ其ノ内消防上特別危険地域鶴見區潮田町、神奈川區子安町、神奈川區反町、保土ヶ谷區天王町、中區麥田町柏葉、中區本牧町、磯子區西根岸町、磯子區瀧頭町地内等八箇所ニ消防活動ニ必要ナル幅員七米乃至八米ノ道路十五路線延長八、二五〇米ヲ新設セントス

尙事業實施ニ際シ移轉家屋ニ對シ居住者ヲ一時收容スル移動バラック五〇〇戸ノ新設ヲ見込ミタリ此ノ他街角剪除、路上工作物整理ヲ行フ

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
危險地區内道路新設	十五路線 八二五〇米	三、一六〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント 木	一、三〇一 一六〇〇 一六〇〇	危險地區數 八箇所 全面積 一、五二一、〇〇〇平米

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
移動バラツク	五、〇〇〇戸	六五〇、〇〇〇円	木	六立米	收容期間五ヶ月一戸當り敷地十坪借地期間八ヶ月電燈水道下水施設ヲナス
街角剪除	二、〇〇〇平米	四〇〇、〇〇〇	鐵鋼材	一六立米	二〇〇箇所
路上工作物整理	一六九	一六、九〇〇	セメント	二五立米	電柱、ポスト、街燈等
計		四、二二六、九〇〇	鐵鋼材	一、三三五立米	

川崎市

一、道路ノ整備

舊市内ノ密集地ノ内南河原、大島、渡田、大師方面ニ在ル危險地帯ニ對シ幅員八米ノ街路六路線其ノ總延長五、〇八五米ヲ新設シ、更ニ右地帯ニ存スル現在幅員三米乃至五米ノ道路ハ路線ヲ選ビ幅員八米ニ擴幅セントス

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
危險地區内道路新設	十六路線 五、〇八五米	一、八六〇、〇〇〇円	鐵鋼材	一八九立米	新設

同

八路線  
一、四三〇米

二八七、〇〇〇円

鐵鋼材

二五六立米

擴築

移動バラツク

三〇〇戸

三六〇、〇〇〇

釘

四噸

收容期間

一ヶ月

街角剪除

一、三〇〇平米

一九五、〇〇〇

鐵鋼材

四噸

電燈水道下水ノ施設ヲナス

一三〇

路上工作物整理

九四箇所

八、五〇〇

セメント

一九立米

電柱、ポスト、街燈等

計

二、七一〇、五〇〇

鐵鋼材

二二三噸

二、自然水利接近施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
自然水利接近道路	四一箇所	二〇五、〇〇〇円	セメント	八二立米	一箇所當り工事費五、〇〇〇圓

### 第三章 新潟地方

#### 第一節 工事費及主要資材

##### 工事費及主要資材總括

工種	工事費	鐵鋼材	セメント	木材
重要施設ノ防護及補強	四五四、八〇〇	一七七	二、四七〇	五〇五
應急修理用資材ノ確保	三七四、〇〇〇	一九八	六二五	一、〇一七
消防及飲料用水利ニ關スル施設	三四〇、〇〇〇	三三三	四三〇	二七〇
消防活動ニ必要ナル施設	六四〇、〇〇〇	八	二〇〇	一〇三
退去及避難ニ關スル施設	八〇、〇〇〇	一	一	八〇〇
計	一、八八八、八〇〇	四一七	三、七二五	二、六九五
重要施設ノ防護及補強				
鐵道	二六九、八〇〇	九八	四一一	三五三
水道	一三、〇〇〇	六	一	一
摘要				

工種	工事費	鐵鋼材	セメント	木材
發送電	一四〇、〇〇〇	五〇	二、〇〇〇	一四〇
港灣	一、〇〇〇	一	一	八
飛行場	二二、〇〇〇	二二	五八	四
瓦斯石油タンク	九、〇〇〇	一	一	一
計	四五四、八〇〇	一七七	二、四七〇	五〇五
應急修理用資材ノ確保				
鐵道	九六、五〇〇	一四八	一	七〇五
水道(工業用水ヲ含ム)	八六、一〇〇	二	一一六	九三
發送電	一一、〇〇〇	一一	二〇	三〇
港灣	七三、八〇〇	一五	一六五	一二七
飛行場	二七、七〇〇	一	三二二	一
河川	六三、九〇〇	二二	一	二
計	三七四、〇〇〇	一九八	六二五	一、〇一七
摘要				

#### 三、消防及飲料用水利ニ關スル施設

工種	工事費	鐵鋼材	セメント	木材
水道(工業用水ヲ含ム)	一一、〇〇〇	一一	二〇	三〇
發送電	七三、八〇〇	一五	一六五	一二七
港灣	二七、七〇〇	一	三二二	一
飛行場	六三、九〇〇	二二	一	二
計	三七四、〇〇〇	一九八	六二五	一、〇一七
摘要				





工種 數量 工事費 資材 摘要

耐彈耐火構造 三ヶ所 一一〇、〇〇〇円 鐵鋼材 二、〇〇五噸

計 一四〇、〇〇〇 木枕 一、〇〇〇噸

四、港灣

工事費及主要資材

工種 數量 工事費 資材 摘要

防空壕築造 五ヶ所 一、〇〇〇円 鐵鋼材 〇・五噸

要員防護ノ爲

五、飛行場

工事費及主要資材

工種 數量 工事費 資材 摘要

防空壕 一 一、〇〇〇円 木材 三・五立米

木造 長三米・幅二米高二米

六、瓦斯、石油タンク

工事費及主要資材

工種 數量 工事費 資材 摘要

油庫 一 二二、〇〇〇 鐵鋼材 五・八噸

附 一〇〇平米輕油庫(袖壁鐵筋コンクリート造)

計 二二、〇〇〇 鐵鋼材 五・八噸

塗裝 一二、二〇〇平米 九、〇〇〇円

ペイント 二・三噸

三、五〇〇立米以上ノタンク(四基) 三、五〇〇立米未滿ノモノ 數基

第三節 應急修理用資材ノ確保

一、鐵道

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	摘要
本線	七ヶ所	一三、四〇〇円	並鐵枕 四三立米	三〇〇人
側線	三ヶ所	一一、一〇〇	並鐵枕 二八立米	一八〇人
分岐器	一〇個	二〇、〇〇〇	鐵枕 三二〇立米	五〇〇人
保安設備		一九、三〇〇	鐵鋼材 一三・五噸	三〇〇人

工種	數量	工事費	資材	材	勞務者	摘要
運轉設備	四ヶ所	九、四〇〇 <sup>円</sup>	古鐵線木枕	三〇四立米	三〇〇人	
旅客設備	七ヶ所	七、〇〇〇	古鐵線木枕	一六〇立米	二〇〇人	
貨物設備	三ヶ所	三、三〇〇	鐵線木枕	二〇〇立米	一六〇人	
機械器具		一三、〇〇〇	鐵鋼	一〇〇立米		
計		九六、五〇〇	鐵鋼	七〇四立米		

二、道路

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	材	勞務者	摘要
道路復舊	假復舊 剛質鋪裝 簡易鋪裝 路盤砂利	五八ヶ所 一、四〇〇 <sup>円</sup> 〇〇〇 <sup>円</sup> 〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼 木枕	一〇二〇立米 一〇一立米	一〇、九〇〇人	
橋梁復舊	二橋	一七、一〇〇	鐵鋼 木枕	九〇立米	二、四〇〇人	馬越橋 昭和橋

道路	數量	工事費	資材	材	勞務者	摘要
道路灰燼整理	一五、〇〇〇 <sup>平米</sup>	四〇、三〇〇			二〇、二五〇人	
道路洗滌	一七、一〇〇 <sup>平米</sup>	八八〇			四四〇人	
道路設施	公私境 下水溝 排水溝	八八 八八 一〇八	鐵鋼 セメント	一一・五噸 一・六噸	六〇人	基本路線 及迂回路線 %
計		八六、一〇〇	鐵鋼 木枕	九三立米	三四、〇五〇人	

三、上水道

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	材	勞務者	摘要
配水管復舊	五ヶ所	三、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼	一〇五立米	一〇〇人	
淨水場構造物補修	四ヶ所	八、〇〇〇	鐵鋼 木枕	二〇〇六立米	五〇〇人	
計		一一、〇〇〇	鐵鋼 木枕	三〇〇一立米	六〇〇人	

四、發送電施設

工事費、主要資材及勞力

工 種 數量 工事費

發變電所復舊 七ヶ所 七三、八〇〇円

資 材  
鐵鋼材 一五・五噸  
銅材 五・五噸  
セメント 一六五噸  
木材 一二七立米

勞務者 摘要

三、二〇〇人

五、港 灣

工事費、主要資材及勞力

工 種 工事費 資 材

岸壁修理 二七、七〇〇圓 セメント

三二二噸 三、四六〇人

摘 要

中央埠頭、北埠頭、日滿倉庫前、臨港埠頭

六、河 川

新潟市ニ最モ重大ナル關係ヲ有スルハ信濃川大河津分水附近ニ在ル閘門、洗堰、可動堰ニシテ、之等重要施設物ハ本川分派地點附近ニ密集存在シ偽裝遮蔽等ノ防護ハ效果無キモノト考ヘラレ專ラ應急修理ニ就キ其ノ方法及必要ナル工費、資材、勞力等ヲ準備スルモノトス

(イ)閘 門

之ガ修理ノ方法ハ藩筋四米ヲ殘シ木枠及土俵ヲ以テ締切リ水位ノ調節ハ角落シヲ以テナス

(ロ)可 動 堰

之ニ對シテ可動堰上流、或ハ下流ニ鐵線蛇籠ト土俵ニテ締切堤ヲ築ク

(ハ)洗 堰

之ガ應急對策ハ蛇籠ヲ以テ締切ヲナス

工事費、主要資材及勞力

工 種 數量 工事費  
縮 切(閘 門) 二ヶ所 五、九〇〇円  
縮 切(可動堰) 二ヶ所 四六、〇〇〇  
縮 切(洗 堰) 二ヶ所 一二、〇〇〇  
計 六ヶ所 六三、九〇〇

資 材  
木 材 一二立米 六〇〇人  
鐵鋼材 一五・五噸 四、四〇〇人  
鐵鋼材 六・五噸 二、〇〇〇人  
鐵鋼材 一二立米 七、〇〇〇人

勞務者 摘要

七、飛 行 場

工事費、主要資材及勞力

工 種 數量 工事費  
離着場滑走路埋戻 五、〇〇〇平米 九、〇〇〇円  
格納庫其他 六、〇〇〇  
計 一五、〇〇〇

資 材  
セメント 一〇立米 一〇〇人  
木 材 五〇立米 一〇〇人  
セメント 一〇立米 一〇〇人  
木 材 五〇立米 一〇〇人

勞務者 摘要

第四節 消防及飲料用水利ニ關スル施設 (○印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

一、上水道施設

新潟市水道ノ普及率ハ七〇%餘、ソノ給水能力ハ一日最大約二四、〇〇〇立方米ナル故常時一日最大使用量ニ比シ尙五、〇〇〇立方米ノ餘裕ヲ有ス

(一)豫備唧筒場ノ施設

浄水ノ市内送配水ハ關屋唧筒所ノミナルヲ以テ更ニ青山浄水所内ニ唧筒室ヲ設ケ一三〇馬力離心動式電動唧筒一臺ヲ据付ケ本箇所ヨリ直接市内ニ送配水セントス

(二)配水幹線相互連絡

東新潟地區ニ於ケル配水管ハ萬代橋架設線ノミナルヲ以テ之レヨリ上流約千三百米ニ架設シアル昭和橋ニ内徑二五〇耗管ヲ添架シ昭和橋架設線約一二〇〇米ヲ増設東西新潟ノ配水線ヲ連絡セントス

(三)工業用水道トノ絡

東新潟地區ノ配給水ニ對シテハ前項ニヨリ二幹線トナルモ該地區ニハ新潟港設備及重要工場多キヲ以テ更ニ新潟工業用水道組合水道ト本上水道配水管トヲ内徑三五〇耗管ニテ約五〇〇米間ヲ連

絡シ同地區配水ノ萬全ヲ期スト同時ニ西新潟ニ逆送出來得ル様一二〇馬力ノポンプヲ設置スルモノトス

工事費及主要資材

工種	工事費	資材	摘要
豫備ポンプ場	四〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント材	四〇〇噸 六〇〇噸
配水幹線連絡	七二、〇〇〇	鐵鋼材 鉛鋼材	七九噸 二・五噸
工業用水トノ連絡	八五、〇〇〇	鐵鋼材 鉛鋼材	八八噸 六〇噸
計	一九七、〇〇〇	鐵鋼材 セメント材	二〇七噸 一二〇噸

二、自然水利利用施設

市内ヲ貫流スル河川水路ハ信濃川水位一、二米以下ノ場合白山揚水場ニテ唧筒揚水ヲナシテ水位ヲ高メ以ツテ浄化ニ努メヨル現況ナルモ近時河底ノ埋没甚シク從ツテ本川水位底下ノ際ハ自然流水ヲ全ク阻止セラルルノ現狀ニ鑑ミ此際少クモ〇・六米程度ノ河床浚漂ヲ行ヒ以テ渴水時ト雖モ河水ノ自然流入ヲ計リ消防用水利ニ便シ唧筒揚水ハ平時舟運ニ對スル水深維持ニ供スルモノトス此ノ總延長二一、五〇〇米ノ内九、二〇〇米ハ特ニ緊急ヲ要スルモノナリ

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
自然水利利用施設	二一、五〇〇米	八九、〇〇〇円	セメント材	一〇〇立米
三、人工水利施設			木セメント材	三〇〇立米

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
貯水槽	一二	五四、〇〇〇円	鐵鋼材	一箇所當リ
			木セメント材	四、五〇〇圓

第五節 消防活動ニ必要ナル施設

消防上危險地區内ノ道路、天神裏線ノ新設及ビ岡本小路並ニ沼垂驛、寺町線ノ改修ヲナシ關屋淨水場傍並ニ税關前ノ他八ヶ所ノ街角ノ剪除ヲナス

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
道路新設擴張路線數	五	六二五、〇〇〇円	鋼材	延長一五七〇米
			木セメント材	幅員八米程度

街角剪除 一〇ヶ所 一五、〇〇〇

計

六四〇、〇〇〇  
 鐵鋼材 一〇〇八立米  
 木セメント材 二〇三立米

剪除長ハ最小五米以上  
 タルコト

# 第四章 東北地方

## 第一節 工事費及主要資材

### 工事費及主要資材總括

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント	摘要
重要施設ノ防護及補強	四六九、五〇〇 <sup>円</sup>	二四六 <sup>立米</sup>	四一〇 <sup>立米</sup>	六八三	
應急修理用資材ノ確保	五四六、五〇〇	四四九	二、一六五	五五〇	
消防及飲料用水利ニ關スル施設	六二八、一〇〇	三九二	一一	一九四〇	
計	一、六四四、一〇〇	一、〇八七	二、五八六	三、一七三	

### 一、重要施設ノ防護及補強

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント	摘要
鐵道	四一九、三〇〇 <sup>円</sup>	二一九 <sup>立米</sup>	三四七 <sup>立米</sup>	六一一 <sup>立米</sup>	仙臺、青森
水道	三、七〇〇	四	一	一四	仙臺
送電	一三、〇〇〇	一	五〇	一	仙臺

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント	摘要
港灣	二、〇〇〇	一	八	一	青森、土崎
油田、石油タンク	八、五〇〇	一	一	一	秋田
飛行場	一三三、〇〇〇	二二	五	五八	仙臺
計	四六九、五〇〇	二四六	四一〇	六八三	

### 二、應急修理用資材ノ確保

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント	摘要
鐵道	一一〇、四〇〇 <sup>円</sup>	二四一 <sup>立米</sup>	三九〇 <sup>立米</sup>	一	仙臺、青森
水路	一二六、四〇〇	五	八四〇	六〇	仙臺
水道	五五、八〇〇	五八	九五	一三五	仙臺
發送電	一九四、四〇〇	一一五	七二〇	二一〇	仙臺、青森
港灣	五三、五〇〇	二〇	一一〇	一四五	鹽釜、土崎、釜石
飛行場	六、〇〇〇	一	一	一	仙臺
計	五四六、五〇〇	四四九	二、一六五	五五〇	

### 三、消防及飲料用水利ニ關スル施設

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント	摘要
水道施設	四八三、〇〇〇 <sup>円</sup>	三二四 <sup>立米</sup>	一 <sup>立米</sup>	七五〇 <sup>立米</sup>	仙臺

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント	摘要
自然水利利用施設	一、七〇〇 <sup>円</sup>	—	—	—	仙臺、青森
人工水利施設	一四三、四〇〇	—	—	—	仙臺、青森
計	六二八、一〇〇	三九二	一一	一、九四〇	

第二節 重要施設ノ防護及補強 (〇印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

一、鐵道 (仙臺・青森地方)

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
主要廳舎及工場ノ偽裝	二	一六、五〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材	二・二五噸	
主要廳舎及驛舎ノ防護	四	二二〇、〇〇〇	鐵鋼材	一八五噸	
主要機器ノ防護	二〇	九〇、七〇〇	鐵鋼材	一四三噸	
運轉豫備施設	三	二〇、〇〇〇	鐵鋼材	四七三噸	
從業員ノ防護	二六九	五三、八〇〇	鐵鋼材	六〇、四九〇袋	電話交換室信號披所
			鐵鋼材	六八噸	貯水槽ソノ他
			鐵鋼材	三三三立米	防空壕
			鐵鋼材	五噸	

消火設備	二八、三〇〇	鐵鋼材	七・七噸	貯水池、井戸
計	四一九、三〇〇	鐵鋼材	二一九噸	
		木セメント	三二四噸	
		木セメント	六四一噸	

二、上水道

都市名	工事種	數量	工事費	資材	材	摘要
仙臺	地下取水塔増設	一ヶ所	三、七〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材	一四噸	

三、發送電施設

都市名	工事種	數量	工事費	資材	材	摘要
仙臺	發變電所偽裝	一三	一三、〇〇〇 <sup>円</sup>	木古漁業用網材	六〇〇立米	
				木古漁業用網材	五〇〇立米	
				木古漁業用網材	六〇〇立米	

四、港灣

都市名	工事種	數量	工事費	資材	材	摘要
土崎港	防空壕築造	五ヶ所	一、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材	〇・八立米	

都市名	青森	計
工種	航路標識	
數量	1	
工事費	1,000円	
資材	鐵鋼材	
材	木	
摘要	〇・五噸 八立米	

五、飛行場

都市名	仙臺	計
工種	防空壕	
數量	1	
工事費	2,000円	
資材	木	
材	鐵鋼材	
摘要	木造長二米、幅二米、高二米 一〇〇平米(輕油庫油壁附) 鐵筋コンクリート造	

六、油田、石油タンク

都市名	秋田市外	計
工種	偽裝	
數量	1	
工事費	8,500円	
資材	鐵鋼材	
材	セメント	
摘要	網 ポイント	

一、鐵道(仙臺・青森地方)  
第三節 應急修理用資材ノ確保

工種	本線	側線	橋梁	機械器具及作業用資材	計
數量	233,630	40,160	37,600	9,000	110,400
工事費	233,630円	40,160円	37,600円	9,000円	110,400円
資材	鐵鋼材	鐵鋼材	鐵鋼材	鐵鋼材	鐵鋼材
材	枕木	枕木	枕木	鐵鋼材	鐵鋼材
摘要	六五七立噸	一〇三噸	一〇三噸	一五噸	三二四立噸

二、道路

都市名	仙臺	計
工種	假復舊 剛質鋪裝 簡易鋪裝 路盤(砂利)	
數量	35ヶ所 7,350平米 1,450平米 1,450平米	
工事費	18,000円	
資材	鐵鋼材	
材	セメント	
摘要	三、八五 三、八五	

都市名	仙臺	計
工種	橋梁復舊	
數量	1橋	
工事費	70,000円	
資材	セメント	
材	木	
摘要	17,700 17,700	

都市名	仙臺	計
工種	道路灰燼整理	
數量	3,400立米	
工事費	35,500円	
資材	セメント	
材	木	
摘要	17,700 17,700	

全市域道路ニ對シ見込ム



都市名	工種	數量	工事費	資材	技術者	勞務者延人員	摘要
	道路洗滌	三、八七平米	三、〇〇〇	鐵鋼材 六〇噸	一般	計	舊市域內道路 ノ一〇%分
計			二六、四〇〇	木セメント材 八〇立米	四五	四三、九三〇	四、三五

三、上下水道

工事費、主要資材及勞力

都市名	工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
仙臺	配水管復舊	五〇ヶ所	六、五〇〇	木鐵鋼材	五、〇〇〇人	延長二〇〇杆
	淨水場構造物補修	三ヶ所	一、五〇〇	木セメント材	二〇〇	
	管渠道路工作物應急復舊	八九	七、八〇〇	木鐵鋼材	一三、五〇〇噸	
計			五、八〇〇	木セメント材	一〇、二一〇	

四、發送電施設

工事費、主要資材及勞力

都市名	工種	數量	工事費	資材	勞務者
仙臺	火力發電所、變電所、送電線復舊		一九〇〇、〇〇〇	木鐵鋼材	一一、二一〇噸
青森	送電線路		四、四〇〇	木鐵鋼材	一、〇四〇噸
計			一九四、四〇〇	木鐵鋼材	一二、二五〇噸

五、港灣

工事費、主要資材及勞力

港灣名	工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
鹽釜港	岸壁修理		三八、〇〇〇	木鐵鋼材	一一、二七〇噸	一日六八〇人
土崎港	岸壁修理	六〇米	二、五〇〇	セメント	二五噸	四五〇
釜石港	岸壁修理		一三、〇〇〇	セメント	五〇噸	魚市場 縣有埋立地先
計			五三、五〇〇	木鐵鋼材	一一、四二〇噸	

六、飛行場

工事費、主要資材及勞力

都市名	工種	數量	金額	勞務者	摘要
仙臺	離着場埋戻	(土量九〇〇〇立米)	三、六〇〇 <small>円</small>	五〇 <small>人</small>	一ヶ月間ニ受クル損傷ヲ一日ニテ修復スルモノトス
仙臺	滑走路埋戻	(三和土四五立米)	六〇〇	三五	
計	防空砂囊製作	二、八〇〇 <small>俵</small>	一、八〇〇	一五四	
			六、〇〇〇	二三九	

一一六

第四節 消防及飲料用水利ニ關スル施設 (○印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

一、上水道施設

仙臺市上水道ノ普及率ハ約五五%、ソノ給水能力ハ一日最大五三、六〇〇噸ナリ

(一) 水源ノ確保

廣瀬川筋荒卷配水池附近ヨリ唧筒取水ヲナス簡易水道ヲ敷設ス

(二) 配水幹線ノ相互連絡

長町、原町地區ハ工場多ク防空的ニ重要視サルベキ區域ナルニモ拘ラズ管末ニシテ水量ニ乏シク平時ノ用水ニモ不足セル状態ナルヲ以テ長町東裏閑上街道ヨリ郡山諏訪線(口徑一五〇耗八百米)ヲ増設スル外長町國民學校前ヨリ國道第四號線廣岡ニ連絡スル幹線(口徑一五〇耗五百米)ヲ作

リ更ニ小田原長丁通幹線ヨリ清水沼ヲ經テ鐵砲町線(口徑一五〇耗五百米)ト控木通西新丁角ヨリ尼寺前ニ至ル線(口徑二五〇耗千米)及原町坂下ヨリ東苦竹ニ延長スル線(口徑二五〇耗千五百米)ヲ計畫ス

此延長四、三〇〇米トス而シテ管末ニ於ケル動水壓ハ何レモ約二〇米ヲ保持セントス

工種	工事費	資材	摘要
簡易水道敷設	四〇〇、〇〇〇 <small>円</small>	鐵鋼管材 七〇噸 鐵鋼管材 七五噸	濾過池長五〇米幅四〇米平均深六米 配水池二五米幅一五米深五米 唧筒徑九(三)段上ゲ揚程八四・八米 モーター其他馬力一五〇馬力一臺
○送配水幹線相互連絡	八三、〇〇〇	鑄鐵管 二四〇噸 鉛鐵管 一一噸	管徑一五〇耗一・二五〇耗
計	四八三、〇〇〇	鐵鋼材 七五噸 鐵鋼材 七五噸	

二、自然水利利用施設

工事費及主要資材

都市名	工種	數量	工事費	資材	摘要
仙臺	河水堰止	一〇ヶ所	三三六 <small>円</small>	木依材	高一米ノ水路横斷土依 縮切工トス
青森	吸管投入孔	三〇ヶ所	一、〇五〇		一ヶ所當工事費三五圓

一一七

都市名	工種	數量	工事費	資材
計	河水堰止		二五〇	空依
			一、七〇〇	木材
				六〇〇丸
				一一立米

摘要

### 三、人工水利施設

#### 工事費及主要資材

都市名	工種	數量	工事費	資材
〇仙	貯水槽	四〇	一三八、四〇〇 <small>円</small>	鐵鋼材 セメント
青森	貯水槽	三五	一〇五、〇〇〇	鐵鋼材 セメント
計			一四三、四〇〇	鐵鋼材 セメント

摘要

一箇所當り工事費  
三、四六〇圓

## 第五章 關西地方

### 第一節 工事費及主要資材

#### 工事費及主要資材總括

工種	大阪		神戸		京都		計
	工事費	資材	工事費	資材	工事費	資材	
重要施設ノ防護及補強	六、〇一〇、六〇〇	鐵鋼材二、六八噸 セメント八、四六噸 木材四、七五立米	一、〇六噸 一、〇六噸 一、〇六噸	三、〇五噸 三、〇五噸 三、〇五噸	七、五三〇、〇〇〇 <small>円</small>	三、二五噸 一〇、四三噸 一九、八五立米	三、二五噸 一〇、四三噸 一九、八五立米
應急修理用資材ノ確保	七、六九、〇〇〇	鐵鋼材五、四七噸 セメント六、三三噸 木材三、〇九立米	一、〇六噸 一、〇六噸 一、〇六噸	四、八噸 四、八噸 四、八噸	一〇、二七、二〇〇	六、五六噸 七、五九噸 五、三〇立米	六、五六噸 七、五九噸 五、三〇立米
消防及飲料用水ニ關スル施設	二、三五、〇〇〇	鐵鋼材三、九〇噸 セメント三、九八噸 木材一、二三立米	五、九九噸 五、九九噸 五、九九噸	一、二五噸 一、二五噸 一、二五噸	一、三五、〇〇〇	三、〇八噸 三、〇八噸 三、〇八噸	三、〇八噸 三、〇八噸 三、〇八噸
消防活動ニ必要ナル施設	九、四〇〇、〇〇〇	鐵鋼材四、〇一〇噸 セメント三、立米	一、五〇噸 一、五〇噸	一、五〇噸 一、五〇噸	一三、五五、〇〇〇	五、五〇噸 三、立米	五、五〇噸 三、立米
退去及避難ニ關スル施設	二、八〇〇、〇〇〇	鐵鋼材九、一八噸 セメント三、七六噸 木材七、〇八立米	一、四九噸 一、四九噸 一、四九噸	三、〇〇噸 三、〇〇噸 三、〇〇噸	四、一〇、〇〇〇	一三、九四噸 一三、〇四三噸 一三、九三立米	一三、九四噸 一三、〇四三噸 一三、九三立米
計	三六、二九、六〇〇						

一、重要施設ノ防護及補強

工種	國有	鐵道	道	水道		發送電	港	瓦斯	石油	計
				上水	下水					
大阪	工事費	二、八五、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	二、二五、〇〇〇	四、七〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	六、〇〇、〇〇〇	六、〇〇、〇〇〇	
		資材	三七七噸	三、五九六噸	一、二五〇噸	三、三〇九噸	一、一五〇噸	一、一五〇噸	一、一五〇噸	一、一五〇噸
神戸	工事費	—	—	—	—	—	—	—	—	
		資材	—	—	—	—	—	—	—	—
京都	工事費	—	—	—	—	—	—	—	—	
		資材	—	—	—	—	—	—	—	—
計	工事費	二、八五、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	二、二五、〇〇〇	四、七〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	六、〇〇、〇〇〇	六、〇〇、〇〇〇	
		資材	三七七噸	三、五九六噸	一、二五〇噸	三、三〇九噸	一、一五〇噸	一、一五〇噸	一、一五〇噸	一、一五〇噸

二、應急修理用資材ノ確保

工種	國有	鐵道	道	水道		發送電	港	河川	計
				上水	下水				
大阪	工事費	二、六三、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	一、八六、〇〇〇	—	—	—	—	七、六九、〇〇〇
		資材	三、四〇〇噸	六、四〇五噸	一、九三三噸	—	—	—	—
神戸	工事費	—	—	—	—	—	—	—	—
		資材	—	—	—	—	—	—	—
京都	工事費	—	—	—	—	—	—	—	—
		資材	—	—	—	—	—	—	—
計	工事費	二、六三、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	一、八六、〇〇〇	—	—	—	—	七、六九、〇〇〇
		資材	三、四〇〇噸	六、四〇五噸	一、九三三噸	—	—	—	—

三、消防及飲料用水利ニ關スル施設

工種	大阪		神戸		京都		計	
	工事費	資材	工事費	資材	工事費	資材	工事費	資材
水道施設	500,000	43	5,000	1	5,000	1	10,000	2
自然水利施設	700,000	47	20,000	1	33,000	6	103,000	15
人工水利施設	1,050,000	41	95	1	70	1	1,115,000	43
計	2,250,000	91	25,000	2	108,000	8	2,373,000	61
四、消防活動ニ必要ナル施設								
道路ノ整備	9,000,000	39	3,000,000	15	1,500,000	1	13,500,000	55
自然水利近施設	400,000	11					400,000	11
計	9,400,000	50	3,000,000	15	1,500,000	1	13,900,000	66

第二節 重要施設ノ防護及補強 (○印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

(一) 大阪市

一、鐵道、軌道 (國有公私設鐵道、京阪神全地區ヲ含ム)

工事費及主要資材

工種	種	數量	工事費	資材		摘要
				資材	數量	
主要廳舍及工場ノ偽裝		三ヶ所	39,700	鐵鋼材	4,980	工場、交換室
主要廳舍及驛舎ノ防護		一二ヶ所	828,000	鐵鋼材	3,165	信號投所、變電所
○主要機器ノ防護		三二〇ヶ所	640,000	鐵鋼材	1,496	工場、交換室
○運轉豫備施設		九ヶ所	62,000	鐵鋼材	317	轉車臺、貯水槽側
○從事員ノ防護		九五〇ヶ所	278,000	鐵鋼材	6,534	簡易待避壕
隧道防護施設		八ヶ所	630,000	鐵鋼材	4,200	地下道
○消火及ビ防火施設			378,000	鐵鋼材	868	
計			2,725,000	鐵鋼材	11,310	



工 種  
瓦斯タンク及附屬建  
物ノ塗裝  
瓦斯塗場建物及設備  
ノ防護

數量  
三〇、〇〇〇<sup>平米</sup>

工事費  
一五、〇〇〇<sup>円</sup>

資 材  
鐵セメン材  
鐵セメン材

二五〇五〇〇〇立米噸  
二五〇五〇〇〇立米噸

二二六

(二)神戸市

一、道 路

工事費及主要資材

工 種  
交 通 標 識  
數量  
五、〇〇〇<sup>円</sup>

木 資 材  
木

一立米

摘 要

木橋ノ耐火改造  
六橋  
二〇、〇〇〇

鐵セメン材  
鐵セメン材

〇・二立米噸  
一立米

神戸市内御崎橋他五橋

計  
二五、〇〇〇

鐵セメン材  
鐵セメン材

〇・二立米噸  
四立米噸

二、上 水 道

工事費及主要資材

工 種  
水源池設備ノ防護  
貯水池堰堤  
三ヶ所  
七〇、〇〇〇<sup>円</sup>

鐵セメン材  
鐵セメン材

一立米噸  
二二五立米噸

摘 要  
他ニ淨配水場、主要建  
物ノ防護警備施設ヲ含

制 水 瓣  
一〇、〇〇〇

鐵セメン材  
鐵セメン材

一立米噸  
二二二立米噸

計  
八〇、〇〇〇

鐵セメン材  
鐵セメン材

一立米噸  
二二二立米噸

三、港 灣

工事費及主要資材

工 種  
上屋倉庫ノ消火施設  
三〇ヶ所  
三〇、〇〇〇<sup>円</sup>

鐵セメン材  
鐵セメン材

四立米噸  
三四〇立米噸

摘 要  
古船ヲ使用スルモノトス

浮 棧 橋  
五ヶ所  
五〇、〇〇〇

鐵セメン材  
鐵セメン材

二立米噸  
二〇〇立米噸

計  
八〇、〇〇〇

鐵セメン材  
鐵セメン材

四立米噸  
二〇〇立米噸

四、瓦斯、石油タンク

工事費及主要資材

二二七

工種	數量	工事費	資材	摘要
瓦斯、石油タンク及 附屬建物塗裝	五〇、〇〇〇平米	二五、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント材	瓦斯タンク 石油タンク 一一三基
瓦斯工場建物防護		三〇、〇〇〇	鐵鋼材 セメント材	

計

五五、〇〇〇

鐵鋼材 一、〇〇〇  
セメント材 一、〇〇〇  
木 五、〇〇〇  
セメント材 一、〇〇〇  
鐵鋼材 一、〇〇〇  
木 五、〇〇〇  
セメント材 一、〇〇〇  
鐵鋼材 一、〇〇〇  
木 五、〇〇〇  
セメント材 一、〇〇〇

尼崎市ヨリ明石市ニ至ル  
地域内ノモノヲ含ム

(三)京都市

一、上水道

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
水源設備ノ防護	四ヶ所	一、〇〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント材	淨水場偽裝遮蔽設備 力ノ設備水質試驗設備 ノ擴充其他ヲ含ム
加壓ポンプ場改造	三ヶ所	三三二、〇〇〇	鐵鋼材 セメント材	地下式ニ改造スルモノ トス

計

一、〇三二、〇〇〇

鐵鋼材 二、五〇〇  
セメント材 三、〇〇〇  
木 七、〇〇〇  
鐵鋼材 二、八〇〇  
セメント材 三、八〇〇  
木 一、一〇〇  
鐵鋼材 二、八〇〇  
セメント材 三、八〇〇  
木 一、一〇〇

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
下水處理場ノ防護	二ヶ所	一五、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント材	下水處理場ノ偽裝遮蔽 防護壁築造豫備動力設 備其他ヲ含ム

二、發送電施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
木造防火壁	五六ヶ所	六四八、二〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 木

三、瓦斯

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
木造防火壁	二ヶ所	七九、二〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 セメント材	瓦斯工場周圍ニ築造

第三節 應急修理用資材ノ確保

(一)大 阪 市

一、鐵道、軌道(國有、公私設鐵道、京阪神全地區ヲ含ム)



工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者
本線	一、六七〇	四〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 一、二五〇立噸	三〇、〇〇〇人
側線	一九〇	一七一、〇〇〇	鐵鋼材 一七八〇立噸	六、〇〇〇人
高架橋	一四二	五六八、〇〇〇	鐵鋼材 二一、三〇〇立噸	一六、〇〇〇人
橋梁	一六一	一、二四八、〇〇〇	鐵鋼材 九、〇〇〇立噸	六五、〇〇〇人
隧道	四	二二、〇〇〇	鐵鋼材 二〇五〇立噸	二、〇〇〇人
運轉設備	一八	二四、〇〇〇	鐵鋼材 二二七〇立噸	三、〇〇〇人
貨物及旅客設備	三三二	八〇、〇〇〇	鐵鋼材 二四三九立噸	五、〇〇〇人
機械器具及作業用資材		二二三、〇〇〇	鐵鋼材 一三〇〇立噸	九五、〇〇〇人
計		二、六四三、〇〇〇	鐵鋼材 三、七四〇立噸	

二、道路

地下鐵

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者
道路關係應急復舊		六〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 二、四八五立噸	七二、〇〇〇人
橋梁關係應急復舊		一、四〇〇、〇〇〇	鐵鋼材 六、〇四二立噸	一四二、〇〇〇人
計		二、〇〇〇、〇〇〇	鐵鋼材 六、四八二立噸	二四四、〇〇〇人

三、上下水道

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者
上水道關係應急復舊		一、五二六、〇〇〇 <sup>円</sup>	鉛鋼材 一、八七八噸	一〇一、〇〇〇人
下水道關係應急復舊		三〇〇、〇〇〇	鐵鋼材 二、四八九立噸	三〇、〇〇〇人

四、港灣

工事費、主要資材及勞力

工種 數量 工事費 資材 勞務者

港灣關係應急復舊 五〇〇、〇〇〇円 鐵鋼材 一、八〇〇立米 勞務者 一三二  
 五七、〇〇〇人

五、河川 工事費、主要資材及勞力

工種 數量 工事費 資材 勞務者

河川關係應急復舊 一〇〇ヶ所 七〇〇、〇〇〇円 鐵鋼材 一、五〇〇立米 勞務者 八〇、〇〇〇人

(二) 神戸市

一、道路 工事費、主要資材及勞力

工種 數量 工事費 資材 勞務者

道路關係應急復舊 十五路線 一六〇、〇〇〇円 鐵鋼材 一、五〇〇立米 勞務者 一五、〇〇〇人  
 一五〇杆 一六〇、〇〇〇円 鐵鋼材 一、五〇〇立米 勞務者 一五、〇〇〇人

橋梁關係應急復舊 武庫大橋 一四〇、〇〇〇円 鐵鋼材 一、四〇〇立米 勞務者 一四、〇〇〇人  
 外三九橋 一四〇、〇〇〇円 鐵鋼材 一、四〇〇立米 勞務者 一四、〇〇〇人

計 三〇〇、〇〇〇円 鐵鋼材 三、〇〇〇立米 勞務者 二九、〇〇〇人

二、上水道

工事費、主要資材及勞力

工種 數量 工事費 資材 勞務者

上水道關係應急復舊 三〇〇、〇〇〇円 鐵鋼材 三、〇〇〇立米 勞務者 二〇〇、〇〇〇人

三、港灣

工事費、主要資材及勞力

工種 數量 工事費 資材 勞務者

港灣關係應急復舊 五〇〇、〇〇〇円 鐵鋼材 一、五〇〇立米 勞務者 六〇、〇〇〇人

(三) 京都市

一、道路 工事費、主要資材及勞力

工種 數量 工事費 資材 勞務者

道路關係應急復舊 五〇〇、〇〇〇円 鐵鋼材 三、二七五立米 勞務者 六九、三〇〇人

重要道路橋梁ノ補修  
 舟橋設置並沿道貯藏  
 庫ノ新設ヲ含ム

二、上下水道

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
上水道關係應急復舊	六二一、〇〇〇 <sup>円</sup>		鐵鋼材 六三四噸 鉛鋼材 一〇一噸 木セメント 三二五立米	一六、九五〇 <sup>人</sup>	資材用假倉庫建設ヲ含ム
下水道關係應急復舊	一一、三一六		鐵鋼材 二二立米	一六、五〇〇	
計	六二三、四〇〇		鐵鋼材 六三六噸 鉛鋼材 一〇一噸 木セメント 三四七立米	三三、四五〇	

三、發送電施設

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
送電關係應急復舊	送電假木柱 二一基	一三六、八〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 四六〇立米	一一、〇〇〇 <sup>人</sup>	假木柱ノ建設

四、河川

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
河川、運河關係應急復舊	二〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>		鐵鋼材 七六〇立米	三、〇六〇 <sup>人</sup>	

第四節 消防及飲料用水利ニ關スル施設（〇印特ニハ緊急ヲ要ス）

（一）大阪市

一、上水道施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
〇幹線連絡	二一〇、〇〇〇 <sup>円</sup>		鐵鋼材 四一一噸 鉛鋼材 一三三噸 木セメント 五六噸	
消火栓ノ改良増設	二九〇、〇〇〇		鐵鋼材 二〇噸	挿込式ニ改造シ、マク重要ノ箇所ニ強力ナル特別消火栓ヲ設ク
計	五〇〇、〇〇〇		鐵鋼材 四三一噸 木セメント 五六噸	

二、自然水利利用施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
河水導入施設	四〇ヶ所	四〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 四一七八噸 木セメント 四一七噸	
計				一三五

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
消防用水路	延長一〇杆	三〇〇、〇〇〇円	セメント	八三〇〇立米	淀川ヨリ取水スルメ新設スルモノトス
計		七〇〇、〇〇〇	鐵鋼材 木セメント材	八四三七八立米	

三、人工水利施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
貯水槽	一五〇個	七五〇、〇〇〇円	鐵鋼材 木セメント材	二、二七一〇〇立米	百立方米貯水槽
自家用水道公共利用施設		三〇〇、〇〇〇	鐵鋼材 セメント材	一三〇二五〇噸	
計		一、〇五〇、〇〇〇	鐵鋼材 木セメント材	二、四四〇〇五立米	

(二)神戶市

一、上水道施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
配水幹線連絡	五、〇〇〇	五、〇〇〇円	鉛鐵鋼材 セメント	一〇・五噸	送配水管ノ連絡工事ヲ施行シ置クモノトス
専用給水管	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	鐵鋼材	二噸	特殊工場ニ對シ直送専用給水管ヲ新設スルモノトス
計	二五、〇〇〇		鐵鋼材 セメント材	一三噸	

二、自然水利利用施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
河水堰止施設	五〇ヶ所	二、〇〇〇円	鐵鋼材 木セメント材	一〇二五立米	河川ニ堰止ヲ施シ自然水ヲ貯溜シテ消防ノ用ニ供ス

三、人工水利施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	材	摘要
貯水槽	四〇〇ヶ所	二、〇〇〇、〇〇〇円	鐵鋼材 木セメント材	六、三四六〇〇立米	百立方米貯水槽
鑿井	六ヶ所	四八〇、〇〇〇	鐵鋼材 木セメント材	二〇〇噸	



工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
道路ノ整備	二〇路線	九、〇〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	セメント 三、九〇〇噸	
自然水利接近施設	四〇ヶ所	四〇〇、〇〇〇	セメント 一、一〇〇噸 木 三立米	密住河岸地ノ家屋ヲ疎開シテ消防自動車進入路ヲ設置スルモノトス

(二)神戸市

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
道路ノ整備	五杆	三、〇〇〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	セメント 一、五〇〇噸

(三)京都市

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
道路ノ整備		一六五、〇〇〇 <sup>円</sup>	

第六章 名古屋地方

第一節 工事費及主要資材

工事費及主要資材總括

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
重要施設ノ防護及補強	五、〇五三、七〇〇 <sup>円</sup>	一、八四九	六、三三九 <sup>立米</sup>	六、三九四 <sup>噸</sup>
應急修理工資材ノ確保	四、六六九、一〇〇	二、八八七	一九、六六七	七、五八四
消防及飲料用水利ニ關スル施設	五、六五二、六〇〇	三、四五〇	一、九九一	一三、六四二
消防活動ニ必要ナル施設	一、七一、一〇〇	三一	一、七九四	七四九
退去及避難ニ關スル施設	一、一〇〇、〇〇〇	四	一一、〇〇〇	
計	一八、一八六、五〇〇	八、二二一	四〇、七九一	二八、三六九

一、重要施設ノ防護及補強

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
鐵道				
國有	九五六、六〇〇 <sup>円</sup>	二四三	五、三五七 <sup>立米</sup>	一、二九五
公私設	一、三六五、五〇〇	二二		一、三六八
計		二六五		二、六二三

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント	勞務者
水道	八四八、〇〇〇 <small>円</small>	五三五 <small>噸</small>	六二七 <small>立方</small>	一、〇九一 <small>噸</small>	
發送	三〇〇、〇〇〇	三五	一〇〇	一一〇	
港灣	一、四二五、〇〇〇	一、〇〇〇	二五〇	二、〇〇〇	
飛行場	八六、五〇〇	一四		五三〇	
瓦斯	二四、〇〇〇		五		
計	五、〇五三、七〇〇	一、八四九	六、三三九	六、三九四	

二、應急修理用資材ノ確保

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント	勞務者
鐵道	一、〇八八、三〇〇 <small>円</small>	一、二五〇 <small>噸</small>	四、七八八 <small>立方</small>	二二五 <small>噸</small>	
國有	一七一、四〇〇	一七	七九		
公道設	四三三、八〇〇	四	一二、二三五	一一五	
水道	八三〇、〇〇〇	八六一	三五二	一、六〇〇	
發送	四〇、〇〇〇	三	一〇〇	二〇	
計	一、二〇〇、〇〇〇	三五〇	四五〇	一、四〇〇	二〇〇、〇〇〇 <small>人</small>

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
港灣	五〇〇、〇〇〇	二〇	一、五〇〇	二〇〇
河川運河	一一六、三〇〇	二〇	一四八	
飛行場	三、五〇〇			
瓦斯	二八五、八〇〇	三六二	一五	四、〇二四
計	四、六六九、一〇〇	二、八八七	一九、六六七	七、五八四

三、消防及飲料用水利ニ關スル施設

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
上水道施設	五、一三〇、〇〇〇 <small>円</small>	三、二六〇 <small>噸</small>	一、八七〇 <small>立方</small>	一一、四五三 <small>噸</small>
自然水利利用施設	七二、六〇〇	九五	四一	六四
人工水利施設	四五〇、〇〇〇	九五	八〇	一、一二五
計	五、六五二、六〇〇	三、四五〇	一、九九一	一三、六四二

第二節 重要施設ノ防護及補強 (〇印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

一、鐵道、軌道

工種	工事費及主要資材 (國有鐵道)	摘要
主要廳舎ノ偽裝	二ヶ所 五八、二〇〇 <small>円</small>	木 三、八二〇 <small>立方</small> セメント 三、五〇〇 <small>噸</small> 立米 三、五〇〇 <small>噸</small> 瓦 三、五〇〇 <small>噸</small> 細 三、五〇〇 <small>噸</small>

工種	數量	工事費	資材	摘要
○主要廳舍及驛ノ防護	二三ヶ所	一五五、八〇〇	セメント 三〇六立米	開閉所、電話交換室
○主要機器ノ防護	八七ヶ所	四五、四〇〇	鐵鋼材 四〇三立米	信號及挺子拔所等
運轉豫備施設	二ヶ所	四〇、〇〇〇	鐵鋼材 三五五噸	
○消火及防火設備	二二件	一三六、四〇〇	鉛 三五二噸	貯水池
○從業員ノ防護	三九〇ヶ所	一一四、八〇〇	鐵鋼材 三五〇噸	井戸ポンプ等
計		九五六、六〇〇	鐵鋼材 一五、二九五噸 木 五、二〇〇立米 セメント 一、二五七噸	

工事費及主要資材(公私設鐵道)

工種	數量	工事費	資材	摘要
主要廳舍工場偽裝	一ヶ所	二四、七〇〇	鐵鋼材 〇・五噸	工場運輸事務所
主要廳舍工場防護	五一	二五二、一〇〇	鐵鋼材 三四〇噸	保險及電氣詰所ノ防護、電車、自動車々庫
主要機器防護	一五	一、〇五七、一〇〇	鐵鋼材 三四四噸	變電所及車輛防護

從業員防護施設

計	三	三一、六〇〇	鐵鋼材 六八四噸
		一、三六五、五〇〇	鐵鋼材 一、三六八噸

二、上下水道

(一)上水道

工種	數量	工事費	資材	摘要
重要施設ノ偽裝遮蔽	一八九、一七〇平米	二〇〇、〇〇〇	鐵鋼材 一〇七立米	沈澱池、濾過池、配水池、唧筒室、配水塔等
○重要施設ノ補強改造	三、〇〇〇米	四五九、〇〇〇	鐵鋼材 一、〇五四噸	唧筒室改造並補強、急速濾過池上屋補強其ノ他
○制水弁増設	一、六七八ヶ所	一八九、〇〇〇	鐵鋼材 一、〇〇〇噸	
計		八四八、〇〇〇	鐵鋼材 一、〇五三噸 木 六二七立米	

(二)下水道

工事費及主要資材



工種 數量 工事費 資材

重要施設補強改造 一〇箇所 三〇〇、〇〇〇円 鐵鋼材 三五噸 木セメント材 一〇〇立噸 中 柳筒室、機械室一五ヶ所ノ

一四六

三、發送電施設

發送電施設ニ關シテハ名古屋市へ送電サルベキ木曾川系、天龍川系、飛驒川系及矢作川系、主要發電所二十六ヶ所及市内二ヶ所ノ火力發電所並ニ十四ヶ所ノ第一次變電所ニ對シ左記ノ如キ防護設備ヲナス、

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
防護壁築造	三二	六四〇、〇〇〇円	
植樹及塗裝	六一	一七五、〇〇〇	
耐彈耐火構造	一五	四五〇、〇〇〇	
防火壁築造	一六	一六〇、〇〇〇	
計		一、四二五、〇〇〇	鐵鋼材 一、〇〇〇立噸 木セメント材 二、〇〇〇立噸 ベイト 三〇〇〇立噸

四、港灣

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
○第九號地危險物置場開渠	延長一、二〇〇米	四九、五〇〇円	鐵鋼材 四六〇噸 セメント材 四六〇噸
豫備燈器ノ整備	五基分	一二、〇〇〇	錫銅材 〇〇・七噸 鐵鋼材 六・六噸 セメント材 七〇噸
上屋及ビ倉庫ノ防火施設	五ヶ所	二五、〇〇〇	鐵鋼材 一三・六噸 セメント材 五三〇噸

五、飛行場

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
防空壕	一	二、〇〇〇円	木材 五立米
迷彩	一式	二二、〇〇〇	ペイント 五噸
計		二四、〇〇〇	木造 格納庫ヲ塗裝ニヨリ迷彩スルモノトス

六、瓦斯

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
迷彩	約一、〇〇〇平米	四八、二〇〇円	ペイント 三八噸
計		一四七	

第三節 應急修理用資材ノ確保

一、鐵道、軌道

工事費及主要資材(國有鐵道)

工種	數量	工事費	資材
線路	二五七、三〇〇 <sub>円</sub>	鐵鋼材	六八八立米
分岐器	一九五、〇〇〇	鐵鋼材	八五〇立米
橋梁	一三	鐵鋼材	三〇八立米
運轉設備	二五	鐵鋼材	三、五七〇立米
貨物及旅客設備	八	鐵鋼材	一、二三五立米
計	一、〇八八、三〇〇	鐵鋼材	四、二八五立米

工事費及主要資材(公私設鐵道)

工種	數量	工事費	資材	勞務者
主要廳舍工場	五七ヶ所	一三三、九一〇 <sub>円</sub>	鐵鋼材	四、〇〇〇人
變電所設備	七ヶ所	三七、三九二	鐵鋼材	六、〇〇〇
本線路	計	一七一、四〇〇	鐵鋼材	一〇、〇〇〇

二、道路

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者
道路復舊	一八六ヶ所	五二、七七〇 <sub>円</sub>	セメント	四、〇三〇人
橋梁復舊	六八橋	三八一、〇〇〇	鐵鋼材	三九、〇〇〇
計		四三三、八〇〇	鐵鋼材	四三、〇三〇

三、上下水道

(一)上水道

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
應急復舊	四三〇ヶ所	八三〇,〇〇〇円	鐵鋼材 セメント材 一、六八一 三五〇〇 二立米	一三、六五〇人	配水管、沈澱池、送水路 取水場、淨水池 二五〇ヶ所 七〇ヶ所 六〇ヶ所 五〇ヶ所

(二)下 水道

四、發送電施設					
工事費、主要資材及勞力					
工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
應急復舊	四〇,〇〇〇円	四〇,〇〇〇円	鐵鋼材 セメント材 一、二〇〇 三立米	六、六〇〇人	

五、港灣					
工事費及主要資材					
工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
應急復舊	九〇ヶ所	一、三〇〇,〇〇〇円	鐵鋼材 銅材 木セメント材 一、四四五 〇〇〇〇 立米	三〇〇,〇〇〇人	一日最大員數 三、五〇〇人

工種	數量	工事費	資材
應急復舊		五〇〇,〇〇〇円	鐵鋼材 セメント材 一、五〇〇 〇〇〇立米

六、河川、運河

工事費、主要資材及勞力					
工種	數量	工事費	資材	勞務者	摘要
樋門	三ヶ所	一九、九一六円	鐵鋼材 木材 依	一、三〇〇人	木曾川
水門	一ヶ所	一八、四四五	空	一、五〇〇	日光川
水門	一ヶ所	一八、四四五	空	一、五〇〇	蟹江川
樋門	一ヶ所	一三、四二〇	鐵鋼材 木材 依	一、〇〇〇	荒子川
溢流堤	一ヶ所	一一、六七四	鐵鋼材 木材 依	一、〇〇〇	庄内川
取水塔	一ヶ所	二四、三五五	空	一、五〇〇	入鹿池
堤防	一ヶ所	一〇、〇〇〇	木材	一、〇〇〇	中川運河
計		一一六、三〇〇	鐵鋼材 木材 依	一四、八八立米	

七、飛行場

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者
離着場埋戻	一、五〇〇平米	三、〇〇〇		三五人
滑走路埋戻	二、〇〇〇平米	五〇〇		三〇人
計		三、五〇〇		六五人

八、瓦斯

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
應急修理	一五二、三五〇			
配管復舊	二七三、二〇〇米	一、三二〇	鐵鋼材 四、〇三六二	
整配壓器	一〇一個	一、五〇〇	木セメント材 一五立米	
計		二八五、八〇〇		現在延長ノ五%ヲ見込ム

第四節 消防及飲料用水利ニ關スル施設 (〇印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

一、上水道施設

上水道施設ニ關シテハ左ノ施設ヲ行フ

工種	數量	工事費	資材	摘要
〇木津用水引用	一、六七〇、〇〇〇		鐵鋼材 五〇〇、七〇〇	東區三階橋附近ヨリ取水シテ淨水場ニ導ク
〇淨水場各地連絡	一、五七〇、〇〇〇		鐵鋼材 三、六〇〇	
配水管直結	二ヶ所	七七一、〇〇〇	鐵鋼材 一、四二四	送水管ヨリ中南部配水
〇貯水池ノ増設	三ヶ所	二、四六〇、〇〇〇	鐵鋼材 二、四七〇	熱田區旗屋町、昭和區瑞穂町及南區櫻本町地
消火栓増設	四〇〇ヶ所	七二、〇〇〇	鐵鋼材 一、二四六	熱田區旗屋町、昭和區瑞穂町及南區櫻本町地
計		五、一三〇、〇〇〇		

二、自然水利利用施設

工種	數量	工事費	資材	摘要
〇木津用水引用	一、六七〇、〇〇〇		鐵鋼材 五〇〇、七〇〇	東區三階橋附近ヨリ取水シテ淨水場ニ導ク
〇淨水場各地連絡	一、五七〇、〇〇〇		鐵鋼材 三、六〇〇	
配水管直結	二ヶ所	七七一、〇〇〇	鐵鋼材 一、四二四	送水管ヨリ中南部配水
〇貯水池ノ増設	三ヶ所	二、四六〇、〇〇〇	鐵鋼材 二、四七〇	熱田區旗屋町、昭和區瑞穂町及南區櫻本町地
消火栓増設	四〇〇ヶ所	七二、〇〇〇	鐵鋼材 一、二四六	熱田區旗屋町、昭和區瑞穂町及南區櫻本町地
計		五、一三〇、〇〇〇		

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
呼水設備	四五ヶ所	四五、〇〇〇 <sub>円</sub>	鉛鐵鋼材
吸水管投入孔	二三ヶ所	四、六〇〇	鐵鋼材
河海水導入施設	五ヶ所	二三、〇〇〇	鐵鋼材
計		七二、六〇〇	鐵鋼材

三、人工水利施設

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
自家用水道相互連絡		一〇〇、〇〇〇 <sub>円</sub>	鐵鋼管材
貯水槽	七〇ヶ所	三五〇、〇〇〇	鐵鋼材
計			鐵鋼材

計

四五〇、〇〇〇

鐵鋼材

一、二八〇立米

第五節 消防活動ニ必要ナル施設

自然水利ニ接近スル爲ノ施設ヲ左ノ二種ニ分チ考慮セリ

(イ)甲種取水場 消防自動車二臺ガ利用出來ルモノ

(ロ)乙種取水場 消防自動車一臺ガ利用出來ルモノ

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
自然水利接近施設	三五ヶ所	五〇、〇〇〇 <sub>円</sub>	鐵鋼材	甲種三ヶ所
道路整備備	一三路線	一、六六一、一〇〇	鐵鋼材	
計		一、七一一、一〇〇	鐵鋼材	





工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
偽裝	一〇ヶ所	二〇、八一〇 <sup>円</sup>	木ベイント材	二〇立米
開口部ノ防護	三〇ヶ所	一一、八五〇	木材	六四立米
計		三三、七〇〇	木ベイント材	八四立米
				〇・四噸
				植樹及塗裝

三、瓦斯

(イ)容量 六、〇〇〇立方米以上ノモノニ對シ偽裝ヲナス  
 (ロ)偽裝ハベイント塗裝ニ依ル迷彩ヲナス

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	摘要
塗裝	六ヶ所	八、七〇〇 <sup>円</sup>	ベイント	五・八噸
				工期一ヶ月トス

第三節 應急修理用資材ノ確保

一、鐵道、軌道

工事費及主要資材(國有鐵道)

工種	數量	工事費	資材	摘要
本線路		三二、三九〇 <sup>円</sup>	木鐵鋼材	一九五立米
側線路		五八、六一〇	木鐵鋼材	一四三立米
橋梁	八	三四九、七〇〇	木鐵鋼材	二四三立米
運輸設備	二〇	二〇、〇〇〇	木鐵鋼材	六四一立米
機械器具及作業用資材		一三、〇〇〇	鐵鋼材	二〇噸
計		四七三、七〇〇	木鐵鋼材	一〇六九七立噸
			鐵鋼材	二〇噸
			木鐵鋼材	一〇二五五立噸
			木鐵鋼材	六四一立噸
			木鐵鋼材	四一五立噸
			木鐵鋼材	二四三立噸
			木鐵鋼材	一四三立噸
			木鐵鋼材	一九五立噸

工事費及主要資材(公私設鐵軌道)

工種	數量	工事費	資材	摘要
線路		一一三、二四〇 <sup>円</sup>	木鐵鋼材	三八三・一噸
電車橋	四	三六、〇〇〇	木鐵鋼材	四七九立米
計		一五九、三〇〇	木鐵鋼材	八五・三噸
			木鐵鋼材	五一立米
			木鐵鋼材	四六八・四噸
			木鐵鋼材	五三〇立米
				一、三〇〇人
				一、〇〇〇
				二、三〇〇

二、道路



工事費、主要資材及勞力

勞務者(一ヶ月) 技術者 一般 計

工種	數量	工事費	資材	勞務者
道路復舊	五〇ヶ所	一五、〇〇〇 <sub>円</sub>	鐵鋼材 六・三噸 木鋼材 一・〇五立米	八〇人 一、三〇〇人 一、三八〇人
市内橋梁復舊	二六	一四〇、九〇〇	鐵鋼材 一・〇五立米 木鋼材 一・〇五立米	七七四 六七九 一、四五三
計		一六五、九〇〇		一、三五四 二、五七九 三、九三三

三、上下水道

(一)上水道

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者
配水管復舊	一二七ヶ所	一三八、四〇〇 <sub>円</sub>	鐵鋼材 三三八噸 木鋼材 一七〇立米	一〇、〇〇〇人 配水管延長 五〇七杆

(二)下水道

廣島市ニ於テハ滿潮面以下ノ土地多キヲ以テ下水ノ放流箇所ノ樋門ニ就キ考慮ス

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者
樋筒及樋門應急復舊	三ヶ所	二七、〇〇〇 <sub>円</sub>	鐵鋼材 一七・一噸 木鋼材 一五立米	七五〇人

四、河川

太田川筋ニ就キ考慮ス

工事費、主要資材及勞力

工種	數量	工事費	資材	勞務者
堤防復舊	一三ヶ所	一一、六〇〇 <sub>円</sub>	木材 一三〇立米	三、〇〇〇人

第四節 消防及飲料用水利ニ關スル施設 (〇印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

消防用水利ニ關スル施設トシテ廣島市ニ於テハ貯水槽及河水堰止施設、吳市ニ於テハ貯水槽ノミヲ考慮ス

工事費及主要資材

都市名	工種	數量	工事費	資材	摘 要
廣島	貯水槽	七〇	二八〇、〇〇〇 <sub>円</sub>	鐵鋼材 一、一六三噸 木鋼材 二一〇立米	一ヶ所當リ工事費 四、〇〇〇圓
吳	貯水槽	三八	一五二、〇〇〇	鐵鋼材 六〇八噸 木鋼材 一四八立米	
廣島	河水堰止施設	六	三三、四〇〇	鐵鋼材 五二二噸 木鋼材 一五立米	
計			三六四、四〇〇	鐵鋼材 二、二四九噸 木鋼材 三四九立米	

### 第五節 消防活動ニ必要ナル施設

廣島市ニ就イテハ河岸迄消防自動車ノ近接シ得ザル部分ハ一部家屋ヲ撤去シ幅員八米程度ノ道路ヲ設置ス

工事種	種	數量	工事費	資材	摘要
自然水利接近道路		三五ヶ所	二四〇、〇〇〇 <sub>円</sub>	セメント	平均延長 二〇米
				五〇噸	

## 第八章 北九州地方 第一節 工事費及主要資材

### 工事費及主要資材總括

工事種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
重要施設ノ防護及補強	一、三五八、九〇〇 <sub>円</sub>	二四五 <sub>噸</sub>	一、七三二 <sub>立米</sub>	一、九〇〇 <sub>噸</sub>
應急修理用資材ノ確保	一、八一八、三〇〇	二、一七六	六、八〇六	一、七〇六
消防及飲料用水利ニ關スル施設	一、六四五、七〇〇	一、八二八	五、七二九	三、〇三一
退去及避難ニ關スル施設	九〇〇、〇〇〇	三	九、〇〇〇	—
計	五、七二二、九〇〇	四、二五二	二三、二六七	六、六三七

### 一、重要施設ノ防護及補強

工事種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
鐵道(國有)	一、〇六七、四〇〇 <sub>円</sub>	一四一	七二三 <sub>立米</sub>	一、〇五六 <sub>噸</sub>
水道(公私)	四〇、五〇〇	—	四七〇	—

工種	工事費
發送電	七四、〇〇〇
港灣	三〇、〇〇〇
飛行場	六五、〇〇〇
瓦斯石油タンク	八二、〇〇〇
計	一、三五八、九〇〇

二、應急修理用資材ノ確保

工種	工事費
鐵道(國有)	四七六、七〇〇
道(公私)	四六〇、二〇〇
上水道	四六四、〇〇〇
發送電	五四、〇〇〇
港灣	三三五、六〇〇
河川	一〇、〇〇〇
飛行場	一七、八〇〇
計	一、八一八、三〇〇

資材	数量
鐵鋼材	二四五
木材	二
セメント	二四五
鐵鋼材	六六
木材	二二五
セメント	一、七三二
鐵鋼材	三五
木材	九
セメント	一、九〇〇
鐵鋼材	三〇〇
木材	一五
セメント	一七四
鐵鋼材	一七
木材	一一五
セメント	六〇
鐵鋼材	八三四
木材	二一〇六
セメント	一二五
鐵鋼材	一七
木材	二、六一二
セメント	一二七
鐵鋼材	七八〇
木材	一一五
セメント	一九〇
鐵鋼材	五二〇
木材	一、〇〇〇
セメント	三二一
鐵鋼材	二五
木材	九七四
セメント	九四三
鐵鋼材	二、一七六
木材	六、八〇七
セメント	一、七〇六

一六六

第二節 重要施設ノ防護及補強 (〇印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

工種	数量	工事費	資材	摘要
一、鐵道、軌道				
主要廳舍及工場ノ偽裝	一一	三八、八〇〇	ペイント	四・八噸
〇主要廳舍及驛舎ノ防護	二〇	二四三、〇〇〇	鐵鋼材	二〇噸
			木	八〇立
			鐵鋼材	二一噸
〇主要機器ノ防護	四五	二七〇、一〇〇	鐵鋼材	四八噸
			木	三七立
			鐵鋼材	一九噸
運轉豫備施設	六	四〇、〇〇〇	鐵鋼材	八二噸
			木	二五立
			鐵鋼材	三噸
〇從業員ノ防護	六二五	二二四、〇〇〇	鐵鋼材	六四〇立
			木	一〇〇立
			鐵鋼材	一〇〇噸
〇消防施設		二五一、五〇〇	鐵鋼材	五九噸
			木	六〇噸
			鐵鋼材	一四噸
計		一、〇六七、四〇〇	木	一、七三三立
			鐵鋼材	一、〇五六噸

二、上下水道  
 上水道施設ノ緊急防護措置ハ淨水場關係ノ偽裝ノミヲ行フ、下水道施設ニ付イテハ考慮セズ

一六七

工事費及主要資材

都市名	工種	工事費	資材
下關	關司倉	一〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	
門司	倉	四、〇〇〇	
小幡	倉	二、五〇〇	
八幡	淨水場偽裝	一〇、〇〇〇	
若松		三、〇〇〇	
福岡		五、〇〇〇	
久留米		三、〇〇〇	
大牟田		三、〇〇〇	
計		四〇、五〇〇	木鐵鋼材材 四七〇立米噸

三、發送電施設

下關市前田火力發電所及對象各都市ニ關係ヲ有スル九州各地ノ五、〇〇〇キロワット以上ノ水力發電所二七ヶ所ニ就キ考慮ス

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
火力發電所防護壁築造		二〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	木材 三〇〇立米 下關市

○水力發電所偽裝

二七 五四、〇〇〇

○計

七四、〇〇〇

四、港灣

三池港ノ如キ特殊港ニ於テハ最重要ナル閘門動力室ヲ耐彈構造ニ改築ス

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
閘門動力室耐彈構造改築	一	三〇、〇〇〇 <sup>円</sup>	鐵鋼材 三五噸 三池港 木セメント材 六〇九立米噸

五、飛行場

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材
防空壕	一〇	二、〇〇〇 <sup>円</sup>	
油庫	三	六三、〇〇〇	鐵鋼材 六六噸 木セメント材 一七四立米噸
計		六五、〇〇〇	福岡雁ノ巢飛行場

六、瓦斯、石油タンク

工事費及主要資材

都市名	工種	數量	工事費	資材	材	摘要
○門司	防油壁築造	六	八〇、〇〇〇 <sub>円</sub>	鐵鋼材	六二〇四立噸	門司市
○久留米	瓦斯タンク偽裝		二、〇〇〇	木	一立米	久留米市
○計			八二、〇〇〇	鐵鋼材	六二〇五立噸	

第三節 應急修理用資材ノ確保

一、鐵道、軌道

工種	數量	工事費	資材	材
本線	五、四、五五〇 <sub>円</sub>		鐵鋼材	一六七一立噸
側線	九、九、一五〇		鐵鋼材	二七五五立噸
橋梁	二、八三、〇〇〇		木鐵鋼材	一、七〇五立噸
運轉設備	二、五、〇〇〇		鐵鋼材	一、二三五〇立噸

機械器具及作業用資材

計	一五、〇〇〇	鐵鋼材	二五噸
	四七六、七〇〇	木鐵鋼材	二、一八三立噸

二、道路

工事費及主要資材

都市名	工種	數量	工事費	資材	材	技勞務者
下關	道復舊	鋪裝道 二〇〇ヶ所	七、〇〇〇 <sub>円</sub>	揮發油	七二三立噸	二二六 <sub>人</sub>
	橋復舊	延長 一〇米	四、三五四	鐵鋼材	一〇五立噸	八一
門司	道復舊	鋪裝道 一〇ヶ所	四、一〇〇	揮發油	五二七立噸	二六
	橋復舊	延長 四〇米	一六、〇〇〇	鐵鋼材	一六〇〇立噸	八一
小倉	道復舊	鋪裝道 六ヶ所	三、二〇〇	揮發油	四〇〇立噸	一
	橋復舊	延長 八四米	四二、〇〇〇	鐵鋼材	一七〇立噸	三四三
戸畑	道復舊	鋪裝道 一六ヶ所	三、九〇〇	揮發油	六〇〇立噸	三〇
	橋復舊	延長 三〇米	一一、〇〇〇	鐵鋼材	七〇〇立噸	一一七
計						三、七〇〇 <sub>人</sub>

都市名	工種	數量	工事費	資材	材	技工	勞務者
若松	道路復舊	鋪裝道 四ヶ所 砂利道 十ヶ所	三、〇〇〇 <small>円</small>	揮發油	四八七立噸	二四人	一四〇人
八幡	道路復舊	鋪裝道 三ヶ所 砂利道 一四ヶ所	七、〇五〇	揮發油	一、〇三五立噸	四九	三六四
	橋梁復舊	延長 二五米	一〇、〇〇〇	揮發油	四〇〇立噸	九一	一〇五
福岡	道路復舊	鋪裝道 三五ヶ所 延長 八二米	七、〇〇〇	揮發油	四八〇立噸	六四	二八〇
	橋梁復舊	延長 八二米	五〇、〇〇〇	揮發油	一六七立噸	三五〇	一、四九七
久留米	道路復舊	鋪裝道 一二ヶ所 砂利道 八ヶ所	四、六〇〇	揮發油	四〇〇立噸	一〇	二〇八
	橋梁復舊	延長 二五米	一〇、〇〇〇	揮發油	三〇〇立噸	七八二	一、一九七
大牟田	道路復舊	三〇ヶ所	七、〇〇〇	揮發油	四〇七立噸	一一	一五〇
	橋梁復舊	延長 四二米	一〇、〇〇〇	揮發油	八三九立噸	一〇二	一一二
其ノ他 ノ國縣	道路復舊	一四〇ヶ所	二八、〇〇〇	揮發油	五、〇〇五立噸	二五〇	一、一二〇
	橋梁復舊	二八〇米	一五〇、〇〇〇	揮發油	五、七〇〇立噸	三、四二三	一四、二八一
計			四六〇、二〇〇	揮發油	一五、一七四立噸		

三、上水道

工事費及主要資材

都市名	工種	數量	工事費	資材	材	技工	勞務者
下關	送配水管復舊	八二	三八、〇〇〇 <small>円</small>	鉛鐵鋼材	三、八七噸	二四〇人	一、六六四人
門司	送配水管復舊	八〇	一〇〇、〇〇〇	鉛鐵鋼材	五、五五噸	四三一	二、〇五二
	集水埋管復舊	延長二〇米	三、〇〇〇	木	一五立米	五	三〇
小倉	送配水管復舊	八〇	五〇、〇〇〇	鉛鐵鋼材	四〇〇噸	二五〇	一、八〇〇
戸畑	送配水管復舊	七七	六二、〇〇〇	鉛鐵鋼材	六六噸	三六一	一、七七三
八幡	送配水管復舊	七二	二五、〇〇〇	鉛鐵鋼材	一、一七噸	一八九	一、五六八
若松	送配水管復舊	三三	六、〇〇〇	鉛鐵鋼材	一、一三噸	九四	七三七
福岡	送配水管復舊	九五	一一〇、〇〇〇	鉛鐵鋼材	一、九〇噸	四一〇	二、三四九
計			四六〇、二〇〇	揮發油	二、六一二立噸		

都市名	工種	數量	工事費	資材	勞務者
洞海灣	岸壁復舊	二	一〇、〇〇〇	鐵鋼材 四〇立米	一〇〇
	航路泊地閉塞物除去	一	三、〇〇〇	石炭 五噸	二〇
	迂回航路掘鑿	一	六、〇〇〇	石炭 三〇〇噸	六〇
若松市	岸壁復舊	一	四、〇〇〇	鐵鋼材 二〇立米	七〇
	若戸渡船場復舊	一	八、〇〇〇	鐵鋼材 五〇立米	一〇〇
下關市	岸壁復舊	二	六、〇〇〇	鐵鋼材 五〇立米	一〇〇
	浮棧橋復舊	二	一五、〇〇〇	鐵鋼材 二〇立米 石炭 五〇噸	七〇
關門港	岸壁復舊	六	四五、〇〇〇	鐵鋼材 二〇立米 石炭 二〇噸 木炭 一、五〇〇噸	一、五〇〇人
	迂回航路掘鑿	一	九、〇〇〇	石炭 一、六〇〇噸	七、二〇〇
	浮棧橋復舊	二	一五、〇〇〇	鐵鋼材 二〇立米 石炭 五〇噸	七〇

一七五

都市名	工種	數量	工事費	資材	勞務者
久留米	送配水管復舊	四四	三〇、〇〇〇	鉛鋼材 二〇噸	一二七人
	送配水管復舊	四〇	三〇、〇〇〇	鉛鋼材 一〇立米	九八五人
大牟田	送配水管復舊	四〇	三〇、〇〇〇	鉛鋼材 一〇立米	九〇
	送配水管復舊	四〇	三〇、〇〇〇	鉛鋼材 一〇立米	六〇〇
計			四六四、〇〇〇	鐵鋼材 七九立米 鉛鋼材 二〇噸 木炭 一、九〇〇噸 石炭 二七、三五噸	二、一九七 一、三、五五八

一七四

都市名	工種	數量	工事費
五、港灣	堰堤、水路復舊	二七	五四、〇〇〇
	工事費及主要資材		

資材	數量	勞務者
鐵鋼材	一、五〇〇立米	三七一人
木炭	二、三〇〇噸	二、二四五人
石炭	三、二〇〇噸	

四、發送電施設

工事費及主要資材

資材	數量	勞務者
鐵鋼材	七九立米	二、一九七
鉛鋼材	二〇噸	一、三、五五八
木炭	一、九〇〇噸	
石炭	二七、三五噸	

都市名	工種	數量	工事費	資材	技工	勞務者
博多港	航路標識復舊	三	二、〇〇〇 <sub>円</sub>	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	航路標識復舊	一	一、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	航路標識復舊	一	一、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	航路標識復舊	一	一、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	航路標識復舊	一	一、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	航路標識復舊	一	一、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	航路標識復舊	一	一、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	航路標識復舊	一	一、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	航路標識復舊	一	一、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	航路標識復舊	一	一、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
三池港	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	岸壁復舊	二	二五、〇〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
計	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人
	計	一	三三五、六〇〇	石木鐵 炭材材	一〇・一 四立噸	二〇人

六、河川

小倉市ニテ堤防破堤スルモノトス

工事費及主要資材

工種	數量	工事費	資材	技工	勞務者
堤防復舊	延長 二五〇米	一〇、〇〇〇 <sub>円</sub>	揮發油 六〇〇立	一人	七五〇人夫

七、飛行場

工事費及主要資材

工種	工事費	技工	勞務者
離着場埋戻	一〇、八〇〇 <sub>円</sub>	一人	一五〇人夫
滑空路埋戻	一、六五〇	一人	一〇五人夫
防空砂囊製作	五、三一〇	一人	四六二人夫
計	一七、八〇〇	三人	七一七人夫



第四節 消防及飲料用水利ニ關スル施設

工事費及主要資材

都市名	工事種	數量	工事費
下關	河水堰上施設	一	三、〇〇〇 <small>円</small>
北九州	送水配管	一	一、一六〇、〇〇〇
門司	河水堰止施設	八	一〇、〇〇〇
小倉	貯水槽	一	一、二〇〇、〇〇〇
戸畑	貯水槽	一	三九、九〇〇
八幡	貯水槽	一	四四、三〇〇

資材	數量
セメント	六二立
木	五〇六立
鐵	五〇〇立
鋼	四〇〇立
揮發油	一〇〇立
鐵	六三〇立
鋼	三九〇立
鐵	〇八〇立
鋼	〇三三立
鐵	二六七立
鋼	二二三立
鐵	三一八立
鋼	一五六立
鐵	〇八〇立
鋼	〇三三立
鐵	三〇七立
鋼	二四三立

(○印ハ特ニ緊急ヲ要ス)

都市名	工事種	數量	工事費
若松	貯水槽	五	一六、五〇〇 <small>円</small>
福岡	河水堰止施設	一	七、〇〇〇
久留米	河水堰止施設	七	一、〇〇〇
計			一、六四五、七〇〇

資材	數量
セメント	一三〇立
木	一三五立
鐵	一四二立
鋼	一四二立
鐵	五四六立
鋼	一四二立
鐵	〇二〇立
鋼	〇一〇立
鐵	一〇八立
鋼	二二八立
鐵	一〇七立
鋼	三〇七立

# 第九章 北海道地方

## 第一節 工事及主要資材

### 工事費及主要資材總括

工種	工事費	鐵鋼材	木材	セメント
重要施設ノ防護及補強	一、二七五、一〇〇 <small>円</small>	一、三六〇 <small>噸</small>	一、一二三 <small>立方</small>	二、五八六 <small>噸</small>
應急修理用資材ノ確保	九五五、一〇〇	七四七	二、〇一四	八九七
消防及飲料用水利ニ關スル施設	五二二、〇〇〇	—	五三〇	一、〇四二
消防活動ニ必要ナル施設	二二九、七〇〇	—	六五	四二
計	二、九七一、九〇〇	二、一〇八	三、七三二	四、五六七
一、重要施設ノ防護及補強				
鐵道	五七〇、〇〇〇 <small>円</small>	鐵鋼材 二三七 <small>噸</small>	木材 四〇七 <small>立方</small>	セメント 四二九 <small>噸</small>
				一八一

上水道	工事費	三、八、四〇〇 <sup>円</sup>
發送	工事費	五、九、二、〇〇〇
港灣	工事費	六、八、三、〇〇〇
飛行場	工事費	五、一、〇〇〇
石油タンク	工事費	一、三、〇〇〇
計	工事費	一、二、七、五、一〇〇

二、應急修理用資材ノ確保

鐵鋼材	一、〇、四〇〇	資材	一、〇、四〇〇
木材	七、八〇〇	資材	七、八〇〇
セメント	二、〇、八〇〇	資材	二、〇、八〇〇
鐵鋼材	一、三、六〇〇	資材	一、三、六〇〇
木材	一、一、二、三三	資材	一、一、二、三三
セメント	二、五、八、一六	資材	二、五、八、一六

鐵道	工事費	二、〇、五、七〇〇 <sup>円</sup>
水路	工事費	二、一、七、〇〇〇
水道	工事費	一、八、四、七〇〇
發送	工事費	二、〇、〇〇〇
港灣	工事費	二、八、〇、〇〇〇
川	工事費	三、二、三、〇〇〇
計	工事費	一、四、五、〇〇〇

鐵鋼材	三、三、〇〇〇	資材	三、三、〇〇〇
木材	一、〇、一〇〇	資材	一、〇、一〇〇
セメント	八、七、七〇〇	資材	八、七、七〇〇
鐵鋼材	一、一、〇〇〇	資材	一、一、〇〇〇
木材	一、一、〇〇〇	資材	一、一、〇〇〇
セメント	二、〇、〇〇〇	資材	二、〇、〇〇〇

飛行場	工事費	九〇〇
計	工事費	九、五、五、一〇〇

鐵鋼材	七、四、七〇〇	資材	七、四、七〇〇
木材	二、〇、二、四〇〇	資材	二、〇、二、四〇〇
セメント	八、九、七〇〇	資材	八、九、七〇〇

三、消防及飲料用水利ニ關スル施設

自然水利利用施設	工事費	一、二、〇、〇〇〇 <sup>円</sup>
人工水利施設	工事費	五、〇、〇、〇〇〇
計	工事費	五、二、〇、〇〇〇

鐵鋼材	一、〇、〇〇〇	資材	一、〇、〇〇〇
木材	五、〇、〇〇〇	資材	五、〇、〇〇〇
セメント	一、〇、〇〇〇	資材	一、〇、〇〇〇

第二節 重要施設ノ防護及補強

一、鐵道

工種	數量	工事費
工場偽裝	一	一、六、〇、〇〇〇 <sup>円</sup>
主要應舍防護	二	一、五、〇、二〇〇
主要機器防護	七	二、〇、九、一〇〇

資材	摘要
鐵鋼材	一、六、五、五〇〇
木材	一、三、五、五〇〇
セメント	二、三、〇、〇〇〇
鐵鋼材	一、六、五、五〇〇
木材	一、三、五、五〇〇
セメント	二、三、〇、〇〇〇
鐵鋼材	一、六、五、五〇〇
木材	一、三、五、五〇〇
セメント	二、三、〇、〇〇〇

